

授 業 要 綱

2025 年度（令和 7 年度）

作業療法学科 夜間部

専門学校 社会医学技術学院

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	情報社会と情報リテラシー										
担当者氏名	兵頭 洋子、河野 崇										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

医療情報を扱う心構えや医療情報の重要性を認識し、多岐に渡る情報収集スキルについて理解し、情報機器やITネットワークを活用して、情報・データ管理、活用をする能力について理解することを目的とする。具体的には、医療情報の種類の理解、情報収集の方法について修得する。

《テキスト》

なし

《参考図書》

必要に応じて紹介する。

《目標行動(SBO)》

1. 情報の見極め方、情報源の確認にあたっての注意事項を説明できる。
2. 医療情報の種類や収集方法、取り扱いについて説明できる。
3. 医療情報のまとめ方を説明できる。

《学生の留意点》

情報をどのように扱うか、目的、方法、手段、処理の仕方など作業療法で活用することができるよう学習していただきます。

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験）80%
課題20%

《実務経験のある教員による科目》

本科目は、作業療法学科教員が担当し、その実務経験を授業内容の講義などにいかした授業となっています。

《授業計画》

回	形式（教室）	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	兵頭	情報学総論	情報社会とは、情報リテラシーとは
2	講義	兵頭	情報学総論	生成AIとその利用について
3	講義	兵頭	情報学総論	SNSと利用上の注意点
4	講義	兵頭	医療情報①	医療情報とは
5	講義	兵頭	医療情報②	情報収集の方法：文献検索について
6	講義	兵頭	医療情報③	情報漏洩とは、情報セキュリティについて
7	講義	兵頭	医療情報④	守秘義務、実習における事例報告書を描く時の注意点
8	講義	河野崇	統計学①	記述統計（代表値・平均・中央値・標準偏差）
9	講義	河野崇	統計学②	グラフの見方、グラフの作成
10	講義	河野崇	統計学③	調べたい事を挙げて、調べて、グラフにしましょう
11	講義	河野崇	医療情報の整理①	バイアスについて
12	講義	河野崇	医療情報の整理②	EBMについて
13	講義	河野崇	医療情報の整理③	論文を読む 事例研究
14	講義	河野崇	医療情報の整理④	論文を読む 横断研究
15	講義	河野崇	医療情報の整理⑤	論文を読む 縦断研究

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	運動学Ⅱ										
担当者氏名	福井 健太郎、兵頭 洋子、河野崇										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										○
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

作業療法の評価・治療が行えるようになるために、身体運動に関する基礎知識を習得する

《テキスト》

適宜資料を配布します。

《参考図書》

石井慎一郎：『動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践』、メジカルビュー社、2013
中村隆一・齋藤宏・長崎浩（著）：『基礎運動学第6版補訂』、医歯薬出版、2012
『クエスチョン・バンク理学療法士作業療法士国家試験問題解説2019』メディックメディア

《目標行動(SBO)》

1. 身体運動及び動作分析に必要な基礎知識について説明できる
2. 片麻痺者の障害像について説明できる
3. 正常歩行と異常歩行について説明できる
4. 運動発達について説明できる

《学生の留意点》

この授業では理解を進めるために演習を行う時間があります。必要に応じて動きやすい服装で参加してください。1年次に学習済みの下記授業内容については各自復習しておくこと。

《成績評価の方法》

小テスト100%（60%に満たなければ別途課題を課す）

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	形式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	福井	呼吸	呼吸器の構造と生理
2	講義	福井	代謝	基礎代謝、エネルギー代謝
3	実技	福井	脳卒中片麻痺	片麻痺者の障害像
4	実技	河野崇	片麻痺機能検査①	片麻痺機能検査 (Br. Stage)
5	実技	河野崇	片麻痺機能検査②	片麻痺機能検査 (上田式)
6	実技	河野崇	反射検査	反射検査 (腱反射・病的反射)
7	実技	福井	筋の評価	筋緊張の異常 (MAS)
8	実技	福井	歩行①	正常歩行①
9	実技	福井	歩行②	正常歩行②
10	実技	福井	歩行③	異常歩行①
11	実技	福井	歩行④	異常歩行②
12	実技	福井	動作分析	動作のスクリーニング
13	講義	兵頭	運動発達①	運動発達①
14	講義	兵頭	運動発達②	運動発達②
15	講義	河野崇	高次脳機能障害	高次脳機能障害概論

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	運動学演習										
担当者氏名	福井 健太郎										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

日常生活活動を分析し、結果を作業療法に応用できるようになるために、人体運動の分析に必要な知識・技術を身につける。

《テキスト》

配布資料

《参考図書》

中村隆一 他：『基礎運動学 第6版補訂版』. 医歯薬出版. 2012
細田多穂 他：『理学療法評価学テキスト』. 南江堂. 2010
山本伸一 編：『中枢神経系疾患に対する作業療法』. 三輪書店. 2009

《目標行動(SBO)》

1. 基本動作の遂行に必要な機能を、評価・分析・記述することができる。
2. 上肢機能を評価・分析・記述することができる。
3. それぞれの検査・測定を評価・測定することができる。
4. 起居動作介助を実施することができる。
5. バランス検査について評価・説明できる。

《学生の留意点》

人体運動および日常生活活動において、どのような機能が必要とされるかを観察、分析する。この能力は、身体障害者の機能訓練のための評価・治療、および日常生活活動の評価・治療を行う上で基礎となるものである。演習（実習）が主体であるので、積極的に参加すること。

《成績評価の方法》

小テスト90% レポート10% (60%に満たなければ別途課題を課す)

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	福井	動作観察①	動作分析の方法について
2	実技	福井	動作観察②	基本動作（立ち上がり）の観察と分析
3	実技	福井	脳神経検査	脳神経検査
4	実技	福井	動作観察③	基本動作（寝返り）の観察と分析
5	講義	福井	運動学習	神経経路と運動学習
6	実技	福井	動作観察④	基本動作（起き上がり）の観察と分析
7	実技	福井	運動機能の評価①	運動失調と協調性検査
8	演習	福井	動作観察⑤	坐位姿勢とリーチ動作の観察と分析
9	演習	福井	運動機能の評価②	リーチ動作と上肢機能検査（STEF）
10	演習	福井	動作観察⑥	手関節の調節機能の観察と分析
11	実技	福井	バランス評価①	立ち直り反応と平衡反応のバランス検査
12	演習	福井	動作観察⑦	手指の操作機能の観察と分析
13	実技	福井	バランス評価②	ファンクショナルリーチ, TUG
14	演習	福井	動作観察⑧	関節可動域制限と代償運動の観察と分析
15	実技	福井	バランス評価③	座位・立位のバランス評価, ベルグバランススケール

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	病理学概論										
担当者氏名	堀田 綾子										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

様々な疾患の特徴や原因について科学的な理解を深めるために、最低限必要な基本的医学用語と医学知識を身につけ、主な疾患の病態を組織像とともに学ぶ。

《テキスト》

指定なし。毎回授業内容に沿ったプリントを配布する。

《参考図書》

指定なし。

《目標行動(SBO)》

1. 外因の生物的要因の説明、代表疾患、退行/進行性病変、各諸型、免疫に関与する因子/細胞や傷害疾患、代表的な感染症の種類/特徴を説明、列挙できる。
2. 代表的な腫瘍名、発生母組織との関係、悪性腫瘍の進展形式を説明できる。
3. 呼吸、消化、生殖器に発生する代表疾患、特徴を説明できる。
4. 脳出血・脳梗塞・くも膜下出血の原因、発生機序を説明できる。

《学生の留意点》

病理学とは何か、病理学を学ぶ意義は何かについて、それぞれが考えてほしい。講義内容の理解を深めるため、復習は確実に行ってください。

《成績評価の方法》

筆記試験100%（期末試験）

《実務経験のある教員による科目》

実務経験を有する医師が担当する。

《授業計画》

回	形式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	堀田	病理学総論 (1)	病理学とは何か 最近のトピックス
2	講義	堀田	病理学総論 (2)	細胞障害と適応、変性、代謝障害
3	講義	堀田	病理学総論 (3)	炎症
4	講義	堀田	病理学総論 (4)	免疫、膠原病
5	講義	堀田	病理学総論 (5)	感染症
6	講義	堀田	病理学総論 (6)	腫瘍
7	講義	堀田	病理学各論 (1)	呼吸器系の疾患1
8	講義	堀田	病理学各論 (1)	呼吸器系の疾患2
9	講義	堀田	病理学各論 (2)	消化器系の疾患1
10	講義	堀田	病理学各論 (2)	消化器系の疾患2
11	講義	堀田	病理学各論 (3)	生殖器系の疾患1
12	講義	堀田	病理学各論 (3)	生殖器系の疾患2
13	講義	堀田	病理学各論 (4)	脳・神経系の疾患1
14	講義	堀田	病理学各論 (4)	脳・神経系の疾患2
15	講義	堀田	まとめ	

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	臨床神経学										
担当者氏名	栗崎 博司 井上里美 板東充秋										
授業方法	講義・演習	単位数	3	回数	30	時間数	60	開講年次	2	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	^(P1) 人を一個人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	^(P2) 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										
	^(P3) 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	^(P4) 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

作業療法へ展開するために、神経障害を生じる主な疾患の疫学、病態、予後、症状、評価・検査、一般的治療について学ぶ。

《テキスト》

江藤文夫 編：『神経内科学テキスト(改定5版)』、南江堂、2023。

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

1. 神経内科疾患の成因と分類について説明できる。
2. 神経内科領域の主な疾患についての診断について説明できる。
3. 神経内科領域の主な疾患についての評価、治療について説明できる。
4. 神経内科と関連する保健と福祉に関連する法律について説明できる。

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験）100%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における神経内科学医師としての実務の経験を生かした科目としている。

《授業計画》

回	式（教室）	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	栗崎・井上	総論	神経機能解剖／神経生理／診断総論（脳血管障害を含む）
2	講義	栗崎・井上	"	神経機能解剖／神経生理／診断総論（脳血管障害を含む）
3	講義	栗崎・井上	"	神経薬理／治療総論／神経の成長・加齢
4	講義	栗崎・井上	"	神経薬理／治療総論／神経の成長・加齢
5	講義	板東	各論	画像の読み方の基礎
6	講義	板東	"	病因と画像 脳血管障害他
7	講義	板東	"	神経難病 パーキンソン病 脊髄小脳変性症 多系統萎縮症 進行性核上麻痺 大脳皮質基底核変性症
8	講義	板東	"	認知症 アルツハイマー型認知症 脳血管性認知症 レビー小体型認知症他
9	講義	板東	"	高次脳機能障害 スクリーニング 失語症
10	講義	板東	"	高次脳機能障害 視空間障害 記憶障害 前頭葉機能障害
11	講義	栗崎・井上	"	意識障害／脳神経／運動の経路
12	講義	栗崎・井上	"	意識障害／脳神経／運動の経路
13	講義	栗崎・井上	"	感覚の経路／運動失調／嚥下機能
14	講義	栗崎・井上	"	感覚の経路／運動失調／嚥下機能
15	講義	栗崎・井上	症候学	錐体外路症状／自律神経／異常歩行
16	講義	栗崎・井上	症候学	錐体外路症状／自律神経／異常歩行
17	講義	栗崎・井上	"	血管障害 神経画像／正常圧水頭症／頭部外傷
18	講義	栗崎・井上	"	血管障害 神経画像／正常圧水頭症／頭部外傷
19	講義	栗崎・井上	"	筋萎縮性側索硬化症（ALS）の基礎と 在宅におけるALS患者への支援
20	講義	栗崎・井上	"	筋萎縮性側索硬化症（ALS）の基礎と 在宅におけるALS患者への支援
21	講義	栗崎・井上	"	脳腫瘍／感染
22	講義	栗崎・井上	"	脳腫瘍／感染
23	講義	栗崎・井上	"	筋疾患／重症筋無力症
24	講義	栗崎・井上	"	筋疾患／重症筋無力症
25	講義	栗崎・井上	"	内科疾患に伴う神経症候／中毒／代謝疾患
26	講義	栗崎・井上	"	内科疾患に伴う神経症候／中毒／代謝疾患
27	講義	栗崎・井上	"	脱髄疾患／末梢神経疾患／自律神経障害
28	講義	栗崎・井上	"	脱髄疾患／末梢神経疾患／自律神経障害
29	講義	栗崎・井上	"	小児先天性疾患
30	講義	栗崎・井上	"	小児先天性疾患

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	整形外科学										
担当者氏名	田村 太										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

理学療法、作業療法に活かすために、整形外科学の主要な疾患概念、病態、神経学的検査、診断、治療そして予後等における一般的知識について修得する。

《テキスト》

医療情報科学研究所編：『病気がみえる Vol.11 運動器・整形外科』・メディックメディア。2017。

《参考図書》

標準整形外科学第17版。医学書院。

《目標行動(SBO)》

1. 骨、軟部組織の修復と再生について理解できる。
2. 整形外科診断、特に画像診断について理解できる。
3. 主要な疾患・外傷の治療、特に手術療法について理解できる。

《学生の留意点》

身体構造（解剖）の問題を取り扱う臨床医学です。どのような領域においても対象者が有していることが多く、その症状・病態生理・評価（検査法）・整形外科治療の理解は、安全かつ効果的な理学療法、作業療法につながります。

《成績評価の方法》

期末試験100%

《実務経験のある教員による科目》

本科目は、臨床医が担当し、その実務経験を活かした授業を展開する。

《授業計画》

回	形式（教室）	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	田村	総論Ⅰ	整形外科総論
2	講義	田村	総論Ⅱ	外傷総論
3	講義	田村	外傷	外傷各論
4	講義	田村	変形性関節症	変形性関節症総論
5	講義	田村	下肢の疾患Ⅰ	下肢（股、膝、足関節）各論①
6	講義	田村	下肢の疾患Ⅱ	下肢（股、膝、足関節）各論②
7	講義	田村	上肢の疾患	上肢（肩、肘、手関節）各論
8	講義	田村	体幹の疾患Ⅰ	体幹各論（脊柱管狭窄症、腰椎椎間板ヘルニア、骨粗鬆症等）
9	講義	田村	体幹の疾患Ⅱ	体幹各論（脊柱、脊髄腫瘍、末梢神経障害等）①
10	講義	田村	体幹の疾患Ⅲ	体幹各論（脊柱、脊髄腫瘍、末梢神経障害等）②
11	講義	田村	腫瘍	骨軟部腫瘍、脊髄腫瘍
12	講義	田村	リウマチ性疾患	関節リウマチ、脊椎炎、感染
13	講義	田村	骨系統疾患、代謝性疾患	骨系統疾患、代謝性疾患
14	講義	田村	復習	復習問題
15	講義	田村	国家試験問題	過去問

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	臨床内科学Ⅰ										
担当者氏名	複数外来講師										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標 (GIO)》

内科疾患の知識をもとに、作業療法に活かすために、主な内科疾患の病態、症状、疫学、予後、評価・検査、一般的治療を知る。

《テキスト》

奈良勲他監修：『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第4版』。医学書院。2020。

《参考図書》

《目標行動 (SBO)》

1. 内科学で扱う疾患について説明できる。
2. 主な循環器疾患を列挙でき、特徴について説明ができる。
3. 主な代謝性疾患を列挙でき、特徴について説明ができる。
4. 主な呼吸器疾患を列挙でき、特徴について説明ができる。
5. 主な消化器疾患を列挙でき、特徴について説明ができる。
6. 感染症、腎疾患、膠原病の特徴について説明ができる。

《学生の留意点》

講義内容を深めるため復習は確実に行ってください

《成績評価の方法》

筆記試験100%

《実務経験のある教員による科目》

本科目は、複数の医師が担当し、その実務経験を授業内容の講義などにいかした授業となっています。

《授業計画》

回	形式 (教室)	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	高橋	内科学総論	内科学総論
2	講義	原田	内科学各論	血液・内分泌疾患①
3	講義	原田	〃	血液、内分泌疾患②
4	講義	原田	〃	血液、内分泌疾患③
5	講義 オンデマンド	杉山	〃	循環器疾患①
6	講義 オンデマンド	杉山	〃	循環器疾患②
7	講義 オンデマンド	杉山	〃	循環器疾患③
8	講義 同時双方向	政木	〃	消化器疾患①
9	講義 同時双方向	政木	〃	消化器疾患②
10	講義	佐藤	〃	呼吸器疾患①
11	講義	佐藤	〃	呼吸器疾患②
12	講義	関	〃	感染症
13	講義	高橋	〃	膠原病
14	講義	上田	〃	腎臓疾患
15	講義	高橋	総論	まとめ

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	臨床内科学Ⅱ										
担当者氏名	保崎 明、遠藤 敏										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1	人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
	DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
	DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
	DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標(GIO)》

高齢期にある対象者を的確に理解するために、老化がもたらす生理学的変化や老年者の疾患の特徴について学ぶ。
作業療法へ展開するために、小児の生理・心理・疾病の特徴と小児保健に関する基本的な知識を学ぶ。

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

大村尉義編：『標準理学療法学・作業療法学 老年学第4版』．医学書院．2014.
日本老年医学会編：『老年医学テキスト3版』．MEDICALVIEW．2013.

《目標行動(SBO)》

【老年医学】1. 高齢者の特徴と医療・福祉政策が言える。2. 老化と加齢、老年症候群の特徴を言える。3. 高齢者の機能・生活評価の説明ができる。【小児科学】1. 先天異常について説明できる。2. 新生児の特徴について説明できる。3. 感染症、または予防接種の種類を列挙できる。4. 小児の発達過程を説明できる。5. 小児保健について説明できる。6. 循環器障害の種類と特徴について説明できる。

《学生の留意点》

老年の疾患でなく、高齢の生活者として考えるようにしてほしい。小児科学においては「こどもは大人の小型ではないので小児の身体的・心理的特徴、及び疾患の特徴をよく理解し、問題解決、治療指導において必要な技能、相応しい態度を身に付けられるように学習に臨んでほしい。

《成績評価の方法》

筆記試験100%（老年医学60%、小児科学40%）

《実務経験のある教員による科目》

当科目は遠藤敏（理学療法士）と保崎明（小児科医）が担当し、その実務経験を授業内容に活かした授業としている。

《授業計画》

回	形式（教室）	担当者	テーマ	学習内容
1	講義・演習	遠藤	老年学とは	老年医学から老年学への発展
2	講義・演習	遠藤	高齢化の問題	高齢社会の抱える諸問題とその対策
3	講義・演習	遠藤	老化現象	加齢に伴う老化現象の状況
4	講義・演習	遠藤	老年症候群	老年症候群と廃用症候群
5	講義・演習	遠藤	高齢者の生理学的特徴1	高齢者の生理学的特徴（視覚、聴覚、嗅覚、味覚、体性感覚などの感覚器）
6	講義・演習	遠藤	高齢者の生理学的特徴2	高齢者の生理学的特徴（呼吸、心臓、腎臓、肝臓などの臓器）
7	講義・演習	遠藤	フレイルとロコモティブ・シンドローム	フレイル、サルコペニア、ロコモティブ・シンドロームの理解
8	講義・演習	遠藤	高齢者の主な疾患・認知症の理解	高齢者における、特に重要な疾患・認知症特有の症状の理解
9	講義・演習	遠藤	高齢者の機能・生活評価	高齢者の機能・生活評価の検査項目とテストバッテリー
10	講義・演習	保崎	小児の疾病1	成長・発達、新生児疾患、先天異常、アレルギー疾患
11	講義・演習	保崎	小児の疾病2	腎・泌尿器・消化器疾患、感染症、川崎病
12	講義・演習	保崎	小児の疾病3	呼吸器、内分泌疾患、先天性心疾患、小児救急他
13	講義・演習	保崎	〃	感染症
14	講義・演習	保崎	小児の疾病と障害 保健	発達と小児保健・循環器障害
15	講義・演習	保崎	〃	発達と小児保健・循環器障害

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	リハビリテーション医学										
担当者氏名	前島 早代、森 逸平、森 武男										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

理学療法/作業療法に展開するために、リハビリテーション医学の概念と各障害に対する基本的原則を学ぶ。

《テキスト》

三上真弘：『リハビリテーション医学テキスト改訂第4版』、南江堂、2016。

《参考図書》

講義内で提示します。

《目標行動(SBO)》

1. 各障害の生じる病態・疫学・予後を記述できる。
2. 各障害の診断法・医学的治療を説明できる。
3. 各障害に対する病期に応じたリハビリテーションを説明できる。
4. 各障害の特徴を列挙できる。

《学生の留意点》

正しい医学知識を身につけ、臨床での応用を常に念頭に置いて勉強してほしい。

《成績評価の方法》

筆記試験100%

《実務経験のある教員による科目》

本科目は医師が担当し、その実務経験を授業内容に活かした授業としている。

《授業計画》

回	形式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	森(武)	総論2	臨床生理～骨格筋の解剖生理
2	講義	森(武)	総論2	バイオメカニクス～運動学
3	講義	森(逸)	総論3、4	リハビリテーション診断・治療
4	講義	前島	各論1	脳血管障害・頭部外傷1
5	講義	前島	各論1	脳血管障害・頭部外傷2
6	講義	森(武)	各論2	運動器疾患1 上肢の絞扼性神経障害まで
7	講義	森(武)	各論2、3	運動器疾患2 股関節の疾患～脊髄損傷
8	講義	前島	各論4	神経筋疾患
9	講義	森(逸)	各論5、7	切断とリウマチ性疾患
10	講義	前島	各論6	小児疾患
11	講義	森(逸)	各論8	循環器疾患 総論2 循環の臨床生理
12	講義	森(逸)	各論9	呼吸器疾患 総論2 呼吸の臨床生理
13	講義	森(逸)	各論10、11	腎疾患、内分泌代謝疾患
14	講義	森(逸)	各論12～15、20、21	集中治療、摂食・嚥下、栄養管理、がん、社会貢献、展開
15	講義	森(武)	各論16～19	外傷、骨粗鬆症、熱傷、その他

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	精神医学概論										
担当者氏名	河野達哉										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										◎
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

精神疾患のある対象者を的確に理解し、作業療法へ展開するために、主な精神障害および疾病の症状、それに対する一般的な治療について学ぶ。

《テキスト》

上野 武治：『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版増補版』、医学書院。

《参考図書》

尾崎 紀夫：『標準精神医学 第9版』、医学書院、2024
大熊 輝雄：『現代臨床精神医学改訂第12版』、金原出版株式会社、2013
上島 国利：『精神医学テキスト-精神障害の理解と治療のために 改訂第5版』、南江堂、2024

《目標行動(SBO)》

1. 精神医学の定義と関連領域について説明できる。
2. 精神障害および精神障害者に関する概念について説明できる。
3. 精神障害の成因と分類について説明できる。
4. 主な疾患の精神症状について説明できる。
5. 主な疾患についての診断と評価、治療について説明できる。
6. 精神障害者が利用できる精神医療・福祉制度について説明できる。

《学生の留意点》

精神障害についてイメージしやすいように動画や画像を用いて講義を進めるようにしますが、皆さんからも、わかりやすい動画等があれば共有していきたいと思います。国家試験問題レベルはどの疾患でも必ず触れますので事前に調べてから授業に臨むようにするとポイントがつかみやすくなると思いますので予習・復習に勤しんでください。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野におけるセラピストとしての実務の経験を、精神医学の基礎という観点から授業内容に生かした科目としている。

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験）100%

《授業計画》

回	形式（教室）	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	河野	総論	精神医学とは・精神障害の成因と分類
2	講義	河野	〃	精神機能の障害と精神症状 当事者が語る症状とは 動画みて感じる。
3	講義	河野	〃	精神障害の診断と評価 診断の手順はあるのか、病識がないとは何か、
4	講義	河野	各論	脳器質性精神障害 認知症 てんかん
5	講義	河野	〃	症状性精神障害・精神作用物質
6	講義	河野	〃	統合失調症（1）
7	講義	河野	〃	統合失調症（2）
8	講義	河野	〃	気分（感情）障害
9	講義	河野	〃	神経症性障害（不安症・強迫症・解離症・身体症状症他）
10	講義	河野	〃	パーソナリティ障害 摂食障害
11	講義	河野	〃	心理的発達の障害 知的能力障害 自閉スペクトラム症
12	講義	河野	〃	心理的発達の障害 注意欠如・多動症 児童の不安症 アタッチメントの障害
13	講義	河野	〃	精神障害者の雇用促進と就労支援
14	講義	河野	〃	精神保健医療福祉の制度
15	講義	河野	〃	精神障害リハビリテーション 薬物療法

《専門分野 基礎作業療法学》

科目名	基礎作業学演習Ⅱ										
担当者氏名	木下 輝、河野 達哉、兵頭 洋子										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

作業療法的手段として構成的作業、非構成的作業を用いるための基本的知識・技術を習得する。

《テキスト》

古川宏：『つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル第2版』医歯薬出版株式会社、2018。

《参考図書》

- 山根寛：『ひとと作業・作業活動 新版』三輪書店、2017。
日本作業療法士協会：『作業—その治療と応用 改訂第2版』協同医書出版社、2003。
- 浅沼辰志他：『基礎作業学実習ガイド 作業活動のポイントを学ぶ』協同医書出版社、2008。

《目標行動(SBO)》

- 各作業活動において、基本的な知識を説明できる。
- 各作業活動において、基本的な技術を実施できる。
- 各作業活動において、一連の工程を実施できる。
- 包括的作業分析を簡易的に実施できる。

《学生の留意点》

- 本授業は、構成的作業と非構成的作業の体験を通して作業の特徴等を学ぶ機会となる。
- 臨床で必要な手段、有効な手段として作業活動を適切に選択するために、積極的な取り組みを推奨する。
- 服装は動きやすく汚れてもよいもの、エプロン等を用意する。
- 感染対策事項に基づいて演習に取り組むこと。

《成績評価の方法》

作品課題60%（作品2種：規定遵守40%，期限提出20%）
レポート課題40%（内容30%，期限提出10%）
＊それぞれの詳細は別途説明します。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を授業内容の演習に活かした授業としている。

《授業計画》

回	形式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1	演習(OT室)	木下	オリエンテーション 構成的作業①	構成的作業を体験する。鋸挽きを通した木材の特徴を経験し、簡易作業分析を行う。
2	演習(OT室)	木下	構成的作業②	構成的作業を体験する。木工を経験し、簡易作業分析を行う。
3	演習(OT室)	木下	構成的作業③	構成的作業を体験する。木工を経験し、簡易作業分析を行う。
4	演習(OT室)	木下	構成的作業④	構成的作業を体験する。ポッチャを経験し、簡易作業分析を行う。
5	演習(OT室)	兵頭	構成的作業⑤	構成的作業を体験する。編み物のかぎ針・棒針で作り目を経験し、簡易作業分析を行う。
6	演習(OT室)	兵頭	構成的作業⑥	構成的作業を体験する。編み物のかぎ針・棒針で基本の編み方を経験し、簡易作業分析を行う。
7	演習(OT室)	兵頭	構成的作業⑦	構成的作業を体験する。編み物のかぎ針で細編み、棒針でガーター編みを経験し、簡易作業分析を行う。
8	演習(OT室)	兵頭	非構成的作業①	非構成的作業を体験する。陶芸の土練りを経験し、簡易作業分析を行う。
9	演習(OT室)	河野達	非構成的作業②	非構成的作業を体験する。陶芸の玉づくり・ひもづくりを経験し、簡易作業分析を行う。
10	演習(OT室)	河野達	非構成的作業③	非構成的作業を体験する。陶芸の板づくりを経験し、簡易作業分析を行う。
11	演習(OT室)	河野達	非構成的作業④	非構成的作業を体験する。陶芸における成形の仕上げを経験し、簡易作業分析を行う。
12	演習(OT室)	木下	非構成的作業⑤	非構成的作業を体験する。オープン陶芸の成形を経験し、簡易作業分析を行う。
13	演習(OT室)	河野達	非構成的作業⑥	非構成的作業を体験する。陶芸における施釉を経験し、簡易作業分析を行う。
14	演習(OT室)	木下	非構成的作業⑦	非構成的作業を体験する。オープン陶芸の素焼き・色付けを経験し、簡易作業分析を行う。
15	演習(OT室)	木下	治療に活かす	焼きあがった陶芸作品を通し振り返るとともに、簡易作業分析を行う。

《専門分野 作業療法評価学》

科目名	作業療法評価学総論										
担当者氏名	河野 崇										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人	○									
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

適切な作業療法を実施できるようになるために、作業療法評価の位置づけや考え方、評価計画の立て方、各領域に共通して行う評価法の概略、画像評価、流れを理解する。観察法、面接法、記録、情報の整理・統合、解釈の仕方を説明できるようにする。

《テキスト》

能登真一他編集：『標準作業療法学 作業療法評価学 第3版』. 医学書院. 2017 .

《参考図書》

必要に応じて参考資料を適宜紹介する。

《目標行動(SBO)》

1. 作業療法の評価の目的について説明できる。
2. 作業療法評価の過程について説明できる。
3. 作業療法評価の手段について説明できる。
4. 作業療法評価計画立案の考え方を説明できる。
5. 情報収集から治療計画立案に至る過程を説明できる。

《学生の留意点》

作業療法の実践に1歩近づく授業となります。作業療法を実施する上で必要となる「評価」に関する知識を修得することになります。覚えなければならないことが山積みです。自己主導型学習とグループ学修をうまく組み合わせて確実な知識を身につけるよう頑張りましょう。

《成績評価の方法》

筆記試験60% 課題40% 総合的に判断して成績評価をする。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務の経験を、作業療法評価学総論の授業に活かした科目としている。

《授業計画》

回	形式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1	講義・演習	河野崇	作業療法評価の基礎	評価とは 視点、理解すること(総論) 評価の方法 手順 評価計画 評価の手順 評価尺度
2	講義・演習	河野崇	障害受容とラポール形成	対象者の心理の理解 障害受容 まずは関係構築をすることが何より重要
3	講義・演習	河野崇	情報収集について	作業療法実践過程 情報収集について、レジュメとデイリー・ケースノートの位置づけ
4	講義・演習	河野崇	記録報告①	記録報告の意義と特徴 (デイリーノート、ケースノート)
5	講義・演習	河野崇	臨床推論 作業療法評価の特性①	クリニカルリーズニング(臨床的推論)について
6	講義・演習	河野崇	評価の手法①	検査法
7	講義・演習	河野崇	評価の手法②	面接法
8	講義・演習	河野崇	評価の手法③	観察法
9	講義・演習	河野崇	評価の手法④	画像検査からの評価
10	講義・演習	河野崇	臨床推論 作業療法評価の特性②	クリニカルリーズニング(臨床的推論)まとめ
11	講義・演習	河野崇	情報の整理について	手段 情報の種類 具体的な評価項目、ICFについて ICDHからICFへ ICFの構成要素
12	講義・演習	河野崇	ICFを用いた医療情報の整理①	ICFを用いた整理の仕方①
13	講義・演習	河野崇	ICFを用いた医療情報の整理②	ICFを用いた整理の仕方②
14	講義・演習	河野崇	ICFを用いた医療情報の整理③	ICFを用いた整理の仕方③、検査測定実習・地域見学実習の準備
15	講義・演習	河野崇	ICFを用いた医療情報の整理④	ICFを用いた整理の仕方④(河野崇)

《専門分野 作業療法評価学》

科目名	身体系作業療法評価学										
担当者氏名	福井 健太郎										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1	人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
	DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
	DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
	DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標(GIO)》

対象者から身体的な情報を検査・測定法により収集できるようになるために、各検査・測定法の目的・意義を理解するとともに、学生間での演習によってその検査・測定法を実施することができる。

《テキスト》

1. 能登真一他：標準作業療法学作業療法評価学第3版、医学書院、2017
 2. 伊藤俊一：PT・OTのための測定評価ROM測定第3版、三輪書
- 《参考図書》
1. 田崎義昭他：ベッドサイドの神経の診かた 改訂17版、南山堂、2016
- その他
必要に応じて資料を提示する。

《目標行動(SBO)》

1. 各検査・測定の目的、意義を説明できる。
2. 各検査・測定の実施要領について説明できる。
3. 指定した検査測定について指示された方法により学生間でアセスメントを実施できる。（バイタルサイン・JCS・GCS・関節可動域測定・感覚検査）
4. 検査・測定場面の設定について、リスク管理・環境に配慮すべき内容を説明できる。

《学生の留意点》

対象者の具体的な情報収集に関する授業となります。本科目は身体に関連する情報収集方法を身につけることが目的となります。

《成績評価の方法》

小課題（40％）実技課題（60％）で評価する。課題で60％未満のものは別途課題を課す。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務の経験を、作業療法評価学演習の授業に活かした科目としている。

《授業計画》

回	形式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	福井	作業療法評価とは	オリエンテーション
2	実技	福井	バイタルサイン	バイタルサインの測定（血圧・脈拍・呼吸・体温、Andersonの基準）
3	実技	福井	意識レベル・形態測定	意識レベル（JCS・GCS）・形態測定
4	実技	福井	関節可動域測定 ①	意義・器具の取扱い・検査法・リスク管理
5	実技	福井	関節可動域測定 ②	関節可動域及び関節可動域測定（肩甲帯～肩関節）
6	実技	福井	関節可動域測定 ③	上肢（肩関節・肘関節・前腕～手関節）
7	実技	福井	関節可動域測定 ④	上肢（母指・手指）
8	実技	福井	関節可動域測定 ⑤	下肢（股関節）
9	実技	福井	関節可動域測定 ⑥	下肢（膝関節～足関節）
10	実技	福井	関節可動域測定 ⑦	体幹・頸部
11	実技	福井	認知機能検査	認知症スクリーニング検査（HDS-R、MMSE）
12	実技	福井	感覚検査①	中枢神経障害の感覚検査：表在感覚・深部感覚・複合感覚
13	実技	福井	感覚検査②	末梢神経障害の感覚検査（ASIA）
14	実技	福井	実技のまとめ	実技課題
15	実技	福井	実技のまとめ	実技課題

《専門分野 作業療法評価学》

科目名	身体系作業療法評価学演習										
担当者氏名	福井 健太郎、河野 崇、外来講師										
授業方法	実技	単位数	2	回数	30	時間数	60	開講年次	2	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									○
		DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									
		DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
		DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標(GIO)》

1. 必要な検査・測定法を選択できるようになるために、各検査・測定法の目的・意義を理解できる。
2. 安全で適切な評価を実施することができるために、基本的な検査法を理解する。

《目標行動(SBO)》

1. 検査・測定の方法、意義を説明できる。
2. 基礎的知識をもとにした検査とその意義の結び付きを説明できる。
3. 各検査・測定の方法を説明できる。
4. リスク管理・環境に配慮した検査・測定の方法を説明できる。

《成績評価の方法》

筆記試験（70%）実技試験（30%）で評価する。
成績は総合的に判断する。

《テキスト》

伊藤俊一（監）：『PT・OTのための測定評価 MMT-頭部・頸部・上肢 第2版』、三輪書店、2016。伊藤俊一（監）：『PT・OTのための測定評価 MMT-体幹・下肢 第2版』、三輪書店、2016。

《参考図書》

《テキスト続き》
能登真一他（編）：『標準作業療法学作業療法評価学第3版』、医学書院、2017。能登真一他（編）：『標準作業療法学 高次脳機能作業療法第2版』、医学書院、2019。
参考図書は授業内で紹介する。

《学生の留意点》

臨床実習Ⅰに関わる大事な授業です。運動学演習・日常生活評価学演習等の授業と連動して、作業療法評価の基礎を学んでいきます。予習・復習を含め積極的に学習し、実技では動きやすい服装・感染症予防対策をして参加してください。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務の経験を、作業療法評価学演習の授業に活かした科目としている。

《授業計画》

回	形式（教室）	担当者	テーマ	学習内容
1	実技	福井	徒手筋力検査法 ①	意義・検査法・基礎知識の確認
2	実技	福井	徒手筋力検査法 ②	上肢①
3	実技	福井	徒手筋力検査法 ③	上肢②
4	実技	福井	徒手筋力検査法 ④	上肢③
5	実技	福井	徒手筋力検査法 ⑤	上肢④
6	実技	福井	徒手筋力検査法 ⑥	上肢⑤
7	実技	福井	徒手筋力検査法 ⑦	下肢①
8	実技	福井	徒手筋力検査法 ⑧	下肢②
9	実技	福井	徒手筋力検査法 ⑨	下肢および体幹・頸部①
10	実技	福井	徒手筋力検査法 ⑩	下肢および体幹・頸部②
11	実技	岩谷	座位評価と車椅子①	シーティング①
12	実技	岩谷	座位評価と車椅子②	シーティング②
13	講義	岩崎	座位評価と車椅子③	小児の座位
14	実技	河野崇	運動機能の評価	フューゲルメイヤーアセスメント
15	講義	神谷	高次脳機能検査①	失語（ST）
16	講義	神谷	嚥下機能検査	嚥下障害
17	演習	河野崇	高次脳機能検査②	コース立方体
18	演習	河野崇	高次脳機能検査③	注意の評価
19	演習	河野崇	高次脳機能検査④	記憶 三宅式 ray, リバーミード
20	演習	河野崇	高次脳機能検査⑤	半側空間無視の評価
21	演習	河野崇	MTDLP	生活行為向上マネジメントの実践
22	実技	福井	介助と評価①	起居動作の介助と評価
23	実技	福井	介助と評価②	トイレ動作の介助と評価
24	実技	福井	関節可動域測定	関節可動域測定
25	実技	福井	検査・測定の実施①	検査・測定の流れと実施方法の復習①
26	実技	福井	検査・測定の実施②	検査・測定の流れと実施方法の復習②
27	実技	外来	検査・測定の実施③	対象者に応じた検査・測定の実施①
28	実技	外来	検査・測定の実施④	対象者に応じた検査・測定の実施②
29	実技	外来	検査・測定の実施⑤	対象者に応じた検査・測定の実施③
30	実技	外来	検査・測定の実施⑥	対象者に応じた検査・測定の実施④

《専門分野 作業療法評価学》

科目名	発達系作業療法評価学										
担当者氏名	兵頭 洋子, 河野 達哉										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		DP1 人を一個人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
		DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
		DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
		DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標(GIO)》

発達障害（広義）の作業療法評価を実施できるようになるために必要な知識を身につける

《テキスト》

能登真一他編集：『作業療法評価学第4版』。医学書院。2024
※刷の違いにより異なる表記があるので注意。

《参考図書》

その都度紹介いたします。

《目標行動(SBO)》

1. 正常発達のマイルストーンを述べることができる
2. 粗大運動・上肢機能・感覚統合機能・認知機能等の発達がそれぞれ関連していることを説明できる
3. 発達障害領域の作業療法評価の目的、評価項目を列挙できる
4. 発達障害領域の作業療法評価で使用する評価法を列挙し、その特徴を述べることができる

《学生の留意点》

この授業では、発達障害領域の対象者を評価するための正常発達・評価法の知識を学ぶ。正常発達の知識は発達障害領域のみならず、身体障害領域・精神障害領域にも関与していく。関連を考えながら学習をしてください。

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験）80%，課題20%（ワークシート実施）

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務の経験を、発達障害の作業療法評価の実施という観点から授業内容に生かした科目としている。

《授業計画》

回	形式（教室）	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	兵頭	コースオリエンテーション 胎児の発達	コースオリエンテーション、胎児の発達
2	講義	兵頭	正常発達①	運動発達と反射・反応との関連
3	講義	兵頭	正常発達②	知覚運動機能（感覚統合）の発達、認知機能の発達
4	講義	河野達	正常発達③	社会性機能の発達
5	講義	兵頭	正常発達④	出生～3歳までの発達（上肢、感覚・認知、社会性機能の発達）
6	講義	兵頭	正常発達⑤	3～5歳までの発達（ ）
7	講義	兵頭	発達過程評価法①	発達過程作業療法における家族との面接、発達過程作業療法における発達検査の目的と留意点、発達全般を評価する検査①
8	演習	兵頭	発達過程評価法②	発達全般を評価する検査② 遠城寺式、DENVER II など 一部検査を体験
9	講義	兵頭	発達過程評価法③	運動機能の評価①
10	演習	兵頭	発達過程評価法④	運動機能の評価② 姿勢・動作分析 など
11	講義	兵頭	発達過程評価法⑤	感覚統合機能の評価①
12	演習	兵頭	発達過程評価法⑥	感覚統合機能の評価② JPAN, JMAP, JSI-R, 感覚プロファイル など 一部検査を体験
13	講義	兵頭	発達過程評価法⑦	視知覚・視覚認知の評価、知能・認知機能の評価①
14	演習	兵頭	発達過程評価法⑧	視知覚・視覚認知の評価、知能・認知機能の評価② フロスティング、WAVES、WPPSI III, KABC II, グッドイナフ など 一部検査を体験
15	講義	兵頭	発達過程評価法⑨ まとめ	行動、作業遂行・日常生活活動の評価、評価計画を立案する

《専門分野 作業療法評価学》

科目名	精神神経系作業療法評価学										
担当者氏名	河野 達哉 外来講師										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

作業療法評価ができるために、作業活動を用いた評価、観察、面接の基本的知識・技術を習得するとともに、各種評価法における目的・対象・特徴を理解する。

《テキスト》

長崎重信：『作業療法学ゴールド・マスター・テキスト精神障害作業療法学 第3版』メジカルビュー、2021。

《参考図書》

岩崎テル子，他編：『標準作業療法学 作業療法評価学 第3版』医学書院、2017。
生田宗博編：『作業療法学全書 改訂第3版 作業療法評価学』協同医書出版社、2009。

《目標行動(SBO)》

1. 作業活動を用いた評価の視点について説明できる。
2. 作業活動を用いた評価の方法を説明できる。
3. 作業活動を用いた評価、観察、面接を一部実施できる。
4. 各種評価法の目的・対象・特徴を説明できる。
5. 記録の意義、形式について、説明できる。
6. 記録を一部実施できる。

《学生の留意点》

本授業は、「作業を用いた評価」の基礎を学び、領域を問わずに作業活動を用いて対象者を評価する基盤となる、評価に作業活動を用いる特性や視点を学習する。
尚、本授業は自己を客観視する機会が含まれ、作業療法の特徴の一つである「the therapeutic use of the self」を考える機会となる。

《成績評価の方法》

筆記試験：85%，小課題：15%
上記合計で100%で6割に満たない場合は再試験とする。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を授業内容の演習に活かした授業としている。

《授業計画》

回	形式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	河野達	作業活動を用いた評価の概論①	オリエンテーション、作業療法における評価とは何か、評価の流れはどのようなものかを学習する。
2	講義・演習	河野達	観察法を用いた評価①	「見る」と「観察」の違い、観察のポイント、観察の種類について学習する。
3	講義	河野達	観察法を用いた評価②	観察演習と実際の観察情報から、臨床において目的と確認方法の計画を学習する。
4	演習・講義	河野達	作業遂行を用いた評価	作業遂行の評価方法から、「箱づくり法」を体験し、その方法と自分自身の特徴を学習する。
5	演習・講義	河野達	作業遂行を用いた評価	「箱づくり法」を体験し、その方法と自分自身の特徴を学習する。作業面接における観察質問の仕方、分析の仕方を理解する。
6	演習	河野達	精神障害領域の観察評価	作業を指導し、参加しながら観察することについて演習を通して学習する。
7	講義	河野達	面接法を用いた評価①	面接の意義と目的、面接の種類、位置関係や環境の使い分け、質問の種類について学習する。
8	演習	河野達	面接法を用いた評価②	面接における原則を踏まえ、面接にはどのような準備、注意、接触技術が必要かを演習を通して学習する。
9	演習	河野達	面接法を用いた評価③	「興味チェックシート」を活用した興味を聴取する面接の演習を通して、質問紙を用いた面接について学習する。
10	講義	河野達	各種評価・検査、尺度①	知能および人格に対する検査法を学習する。
11	講義	河野達	各種評価・検査、尺度②	精神症状、作業ニーズ、作業遂行技能に対する評価法を学習する。
12	講義	河野達	各種評価・検査、尺度③	日常生活動作、社会生活、主観的QOL、職業関連に対する評価法を学習する。
13	講義	河野達	集団を用いた評価①	集団の特徴、種類、構造、治療因子について学習する。
14	演習	河野達	集団を用いた評価②	集団を用いた評価について演習を通して学習する。
15	講義	河野達	記録の目的、形式、注意点	記録の目的と形式、注意点、客観と主観の整理、作業療法の記録には何を書くべきかを、特に自習時のデイリーノートと関連させて学習する。

《専門分野 作業療法評価学》

科目名	日常生活評価学										
担当者氏名	福井 健太郎、河野 崇										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

対象者の日常生活動作を評価できるようになるために、知識・技術を身につける。

《テキスト》

長崎重信監：作業療法学コア・マスターテキスト日常生活活動学（ADL）改訂第2版/ジ・カルピュ、能登真一編：『標準作業療法学 高次脳機能作業療法学第2版』

《参考図書》

山本伸一編：『中枢神経系疾患に対する作業療法』三輪書店、2009。

《目標行動(SBO)》

1. 代表的な日常生活動作の評価バッテリーの特徴を説明できる。
2. FIMにある日常生活動作を評価するポイントを説明できる。
3. 障害を持つ人の日常生活動作を観察・分析・評価できる。
4. 健常者の日常生活動作の観察・分析・記録ができる。
5. 高次脳機能障害者のADLを評価できる。

《学生の留意点》

作業療法評価と臨床実習Ⅰに大きく関わる授業です。ADLを評価する知識と共に動作を見るための知識・技術を身につけ、動作を見る目とそれを表現する力を身につけましょう。

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験）80%，課題（レポート）20%
成績は総合的に判断する。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	形式（教室）	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	河野崇	ADLとIADL	総論・ADLとIADL評価のテストバッテリーの種類と特徴
2	講義	河野崇	ADL評価スケール①	Barthel Indexの評価
3	講義	河野崇	ADL評価スケール②	FIMの評価①
4	講義	河野崇	ADL評価スケール③	FIMの評価②
5	講義	河野崇	ADL評価スケール④	FIMの評価③
6	実技	福井	ADLの観察と分析①	食事動作の観察と分析
7	演習	河野崇	ADL評価スケール⑤	COPMの実施
8	実技	福井	ADLの観察と分析②	整容動作の観察と分析
9	講義	河野崇	作業評価スケール	AMPS
10	実技	福井	ADLの観察と分析③	更衣動作の観察と分析
11	実技	福井	介助方法	移乗動作（点滴・バルーン）
12	実技	福井	ADLの観察と分析④	排泄動作の観察と分析
13	演習	河野崇	高次脳機能障害①	高次脳機能障害とADL①
14	実技	福井	ADLの観察と分析⑤	洗体動作の観察と分析
15	演習	河野崇	高次脳機能障害②	高次脳機能障害とADL②

《専門分野 地域作業療法学》

科目名	地域作業療法学Ⅰ										
担当者氏名	河野崇										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	2	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1	人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
	DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
	DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
	DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標(GIO)》

地域で作業療法を提供できるようになるために基盤となる法律および制度を知り、幅広い作業療法の実施形態について理解することを目的とします。

《テキスト》

大熊明編：『標準作業療法学 地域作業療法学 第4版』、医学書院、2023

《参考図書》

大田仁史著：『地域リハビリテーション論Ver9』、医歯薬出版株式会社、2024
小林法一編集：『地域作業療法学』最新作業療法学講座、医歯薬出版株式会社
徳永千尋編集：地域作業療法学（改定第2版）ゴールドマスターテキスト 他

《目標行動(SBO)》

1. 日本における地域作業療法の歴史を知り今後の可能性を考える
2. 地域作業療法の基盤となる各法律・制度等について知り、各制度における作業療法士の活躍の場を説明できる
3. 各領域の作業法の目的や役割、実際の活動内容を知り知識を共有できる
4. 地域作業療法に必要な知識と技術について説明できる

《学生の留意点》

この授業では広範な地域作業療法の臨床実践について専門の作業療法士から話を伺う機会を多く設けます。外来講師の話を理解するための事前学習が欠かせません。将来地域作業療法の実践家となるために必要な知識と技術、態度を現役の外来講師から多くを学び取ってください。関心をもち質問するようにこころがけてください。

《成績評価の方法》

筆記試験なし。
課題100%：ワークシート提出 講義より学べたこと、作業療法士の役割、今後の課題や方向性、自身の考えなどをワークシートで提出する。期限内の提出か、形式（フォーマット、文章構成等）が整っているか、内容に自身の考え、問題意識等が盛り込まれているかによって評定します。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務の経験を、地域作業療法という観点から授業内容に生かした科目としている。

《授業計画》

回	形式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	河野崇	オリエンテーション	オリエンテーション
2	講義	河野崇	総論 歴史	基本的な枠組み 地域作業療法学の歴史から学ぶ
3	講義	河野崇	総論 枠組み 評価	基本的な枠組み 何を評価するのか
4	講義・演習	河野達	各論 基礎知識 精神領域	精神障害者の地域サポートの基礎知識
5	講義	兵頭	各論 基礎知識 発達領域	発達障害者(児)の地域サポートの基礎知識
6	講義・演習	河野崇	各論 基礎知識 身体領域	身体障害者の地域サポートの基礎知識
7	講義	木下	各論 基礎知識 高齢期領域	高齢期障害者の地域サポートの基礎知識
8	講義	柴田	各論 実践	介護老人保健施設における作業療法士の実践
9	講義・演習	田澤	各論 実践	訪問リハビリテーション・デイサービスにおける作業療法士の実践①(身体/高齢期障害)
10	講義	小林	各論 実践	訪問リハビリテーション・発達支援センターにおける作業療法士の実践②(発達障害者・児)
11	講義・演習	石黒	各論 実践	生活支援における作業療法士の実践(グループホーム)
12	講義	加藤	各論 実践	就労支援における作業療法士の実践
13	講義	駒井	各論 実践	高次脳機能障害者を地域で支える作業療法士の実践
14	講義・演習	大瀬	各論 実践	終末期における作業療法士の実践
15	講義・演習	大塚	各論 実践	海外での作業療法士の実践

《専門分野 臨床実習》

科目名	臨床実習Ⅰ										
担当者氏名	河野 崇, 福井 健太郎, 木下 輝										
授業方法	実習	単位数	2	回数	-	時間数	90	開講年次	2	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										○
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										○

《一般教育目標(GIO)》

- ・ⅠA（検査測定実習）：作業療法における検査・測定の目的とその必要性、実施方法について理解する。
- ・ⅠB（地域見学実習）：介護保険および医療保険における、地域作業療法の実践課程を理解する。
- ・両実習を通じて、職業人としての適切な行動をとることができる。

《テキスト》

関連科目の教科書

《参考図書》

実習地で紹介される文献

《目標行動(SBO)》

1. 職業人として適切な態度や行動をとることができる
2. 基本的な検査と基礎医学的知識を関連づけて説明できる（ⅠA）
3. 対象者に必要な基本的な検査測定を見学・模倣できる（ⅠA）
4. 地域包括ケアシステムの概要を説明できる（ⅠB）
5. 訪問リハビリテーションや通所リハビリテーションの役割について説明できる（ⅠB）
6. 地域包括ケアシステムに関わる多職種との連携について説明できる（ⅠB）
7. 地域包括ケアシステムの中における作業療法士の役割や専門性、心構えについて説明できる（ⅠB）
8. 記録・報告を実践できる

《成績評価の方法》

実習指導者による臨床実習ⅠA（検査測定実習）ならびに臨床実習ⅠB（地域見学実習）の臨床実習指導報告書による評価、学院で実施する臨床実習Ⅰ実習後セミナーを総合し、臨床実習Ⅰの評定として学院が決定する。

《学生の留意点》

実習オリエンテーション資料をよく読み、実習に臨むこと。授業で習った検査測定を事前によく練習したうえで実習に臨むこと。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は実習先の作業療法士が担当し、その実務経験を活かし、学生が実際に検査測定・評価を経験できる内容である。実習後セミナーに関しては学内教員が担当する。

《授業計画》

回	形式（教室）	担当者	テーマ	学習内容
1	ⅠA実習		検査・測定の経験（見学・模倣）	対象者に対して、可能な範囲で検査・測定（ROM, MMT, 知覚検査, 片麻痺機能検査, ADL検査等）を基本的な方法で経験（見学・模倣）する。
2	ⅠA実習		基本動作介助を経験する	対象者に対して、起居・移乗・移動などの基本動作の介助を経験する。
3	ⅠA実習		実習記録をつける	デイリーノート、経験事例の記録、臨床実習経験記録等に記入し、実習指導者からのフィードバックを受ける。
4	ⅠB実習		地域リハビリテーションを見学する	通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションについて見学し説明を受ける。
5	ⅠB実習		実習記録をつける	デイリーノート、経験事例の記録、臨床実習経験記録等に記入し、実習指導者からのフィードバックを受ける。
6	実習後セミナー	河野崇 他	実習後セミナー	学院において実習経験の発表と共有を行う
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	作業療法研究法										
担当者氏名	木下 輝										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	3	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人	○									
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

臨床活動のまとめおよび研究が遂行できるようになるために、研究に必要な知識・技術を習得する。

《テキスト》

指定なし

《参考図書》

鎌倉矩子 他 作業療法士のための研究法入門 三輪書店
1997

《目標行動(SBO)》

1. 作業療法に必要な研究の重要性を説明できる
2. 研究を遂行するために必要な知識を説明できる
3. 各種研究方法の概要を説明できる
4. 研究の結果を発表できる

《学生の留意点》

臨床活動をまとめ、作業療法の発展を支える研究方法の概要を学習します。研究方法の種類、取り組み方や研究疑問、仮設定なども学びます。講義形式ではありますが、参加型の授業になりますので、グループワーク等積極的に参加してください。

《成績評価の方法》

課題レポート70% 発表30%

《実務経験のある教員による科目》

当該研究分野における作業療法士としての実務経験を、作業療法研究法の観点から授業内容に生かした科目としている。

《授業計画》

回	形式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	木下	研究とは何か	研究の意義・研究の進め方
2	講義	木下	研究の種類①	量的研究の信頼性、妥当性、量的研究の種類
3	講義	木下	研究の種類②	質的研究のとは、手法、質的研究の信頼性・妥当性
4	講義	木下	研究の種類③	事例研究
5	講義・演習	坂本	研究基礎	研究に必要な統計の知識
6	講義・演習	井上	研究を知ろう	文献レビューと文献抄読について
7	講義	木下	研究倫理	研究の倫理と管理について
8	講義	菊地	研究テーマ	クリニカルクエスションとリサーチクエスション、リサーチクエスションの構造化
9	講義・演習	木下	研究報告	文献抄読会①
10	講義	木下	臨床研究の方法	作業療法における研究
11	講義・演習	木下	研究報告	文献抄読会②
12	講義	木下	研究命題を立てよう	研究疑問を調べる
13	講義・演習	木下	研究報告	文献抄読会②
14	講義	木下	研究命題を立てよう	研究疑問を調べる
15	講義・演習	木下	命題発表	最終発表会

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	疾病管理論										
担当者氏名	河野達哉 複数外来講師										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	3	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

高度化する医療ニーズに対応するための基本的な知識を修得することを目標とし、オムニバス形式で栄養学、薬理学、救急救命について学び医療現場で生じる様々なリスクマネジメントができるようにする。

《テキスト》

授業の中で資料を配布する。

《参考図書》

授業の中で紹介する。

《目標行動(SBO)》

到達目標：

1. 栄養学の基礎知識と医療現場での食事療法の基礎を理解し説明できる。
2. 薬物の概要を学び生体内動態を理解し説明できる。
3. 救急救命の基礎知識と技術について理解し説明できる。

《学生の留意点》

作業療法業務の中で必要とされる重要な知識、技術を扱います。短時間ですが集中して習得してください。自分なりの疑問を抱きながら、積極的に授業に臨んでください。

《成績評価の方法》

栄養学、臨床薬学、救急救命医学の3領域で1/3ずつ評価し、総合的に成績評定を行う。

《実務経験のある教員による科目》

実務経験があるリハビリテーションスタッフ、薬剤師、救急救命士が担当する。

《授業計画》

回	形式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1	講義・演習	外来	救命救急医学①	救急救命について
2	講義・演習	外来	救命救急医学②	救急救命について
3	講義・演習	外来	救命救急医学③	救急救命について
4	講義・演習	外来	救命救急医学④	救急救命について
5	講義・演習	外来	救命救急医学⑤	救急救命について
6	講義	外来	臨床薬学①	薬とは
7	講義	外来	臨床薬学②	薬の分類
8	講義	外来	臨床薬学③	薬の生体内動態(吸収、分布)
9	講義	外来	臨床薬学④	薬の生体内動態(代謝、排泄)
10	講義	外来	臨床薬学⑤	疾患に対する薬物療法
11	講義	外来	栄養学①	栄養学概論(栄養とは・消化と吸収)
12	講義	外来	栄養学②	栄養素の種類と機能Ⅰ(三大栄養素)
13	講義	外来	栄養学③	栄養素の種類と機能Ⅱ(ビタミン・ミネラル)
14	講義	外来	栄養学④	運動と栄養(エネルギー代謝・スポーツ栄養)
15	講義	外来	栄養学⑤	リハビリテーション栄養(リハビリテーション栄養とは・栄養評価・栄養ケアプロセス)

《専門分野 基礎作業療法学》

科目名	基礎作業学演習Ⅲ										
担当者氏名	河野 崇、兵頭 洋子、木下 輝										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	3	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

作業活動を作業療法的手段として活用できるようになるため、各種作業活動を選択するための知識・技術を習得する。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

山根寛：『ひとと作業・作業活動 新版』、三輪書店、2017
監修 武田淳史、編集 浅沼辰志：『作業処方 一症例の分析と思考プロセス』 メジカルビュー、2013

《目標行動(SBO)》

1. 各種作業活動の特徴をとらえ、治療的に活用する方法を説明できる。
2. 治療目的に適した作業活動を選択し、その根拠を考察し説明できる。

《学生の留意点》

本授業は、作業活動を通じた治療計画を立案する基本的な考え方を学習する。これまでの各科目内容と経験を統合し、評価や治療において目的に応じて選択する作業活動の手段を増やす機会とする。本授業は、講義・実技・紙面症例・課題発表が含まれる。各作業体験への積極的な取り組みを望む。実技を伴う活動もあるため動きやすい服装を用意すること。

《成績評価の方法》

課題100%（ワークシート）

河野 崇：50%、木下 輝：25%、兵頭 洋子：25%

※ワークシートは規定遵守(30%)提出期限(30%)

内容(40%)で採点を行う。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を授業内容の演習に活かした授業としている。

《授業計画》

回	形式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1	講義・演習	河野崇	作業療法目的、治療目的に適した作業選択	健康と幸福を促進する作業療法、治療効果を踏まえた作業選択
2	講義・演習	河野崇	目標設定	目標設定の方法と実践
3	講義	木下	高齢者への作業適応①	ICTを用いた作業活動①
4	講義	木下	高齢者への作業適応②	ICTを用いた作業活動②
5	講義・演習	河野崇	作業の効果	運動(動的作業)と作業療法
6	講義・演習	河野崇	作業の効果	リラクセーション(静的作業)と作業療法
7	講義・演習	河野崇	作業を用いた治療計画	作業を用いた治療の計画の立案 (目的・方法・実施した上で期待される効果)
8	講義・演習	河野崇	作業の実践	計画に基づいた作業の実施(記録と結果)
9	講義	兵頭	子どもの遊び①	年齢別の遊び①
10	講義	兵頭	子どもの遊び②	年齢別の遊び②
11	講義	兵頭	子どもの遊び③	遊びの歴史①
12	講義	兵頭	子どもの遊び④	遊びの歴史②
13	講義	木下	高齢者への作業適応③	ICTを用いた作業活動③
14	講義・演習	河野崇	実施した作業の発表	プレゼンテーション(効果判定とまとめ)
15	講義	木下	高齢者への作業適応④	ICTを用いた作業活動④

《専門分野 作業療法評価学》

科目名	職業関連活動評価学										
担当者氏名	兵頭 洋子, 複数外来講師										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	3	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

1. 学生は、職業関連活動の作業療法評価を実施できるようになるための知識を習得する。
2. 学生は代表的な疾患を有する対象者に職業関連活動に関する評価を実施できるようになるための知識を習得する。

《テキスト》

なし

《参考図書》

- ・平賀昭信 編：『作業療法学全書 第12巻 作業療法技術学4(第3版)』。協同医書。2016
- ・鈴木孝治編：『高次脳機能障害領域の作業療法』。中央法規出版株式会社。2017
- ・宮尾益知編：『発達障害のリハビリテーション』。医学書院。2017
- ・松本信雄：『職業リハビリテーション学』協同医書出版社。

《学生の留意点》

対象者の状況に合わせた職業復帰を支援できるようにするため、職業関連活動の評価と実践を学びます。評価を実際にできるように、積極的にテストバッテリーの実施方法を演習し身につけてください。
各領域で職業復帰の支援をしている作業療法士の評価・実践を講義してもらいます。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務の経験を、障害者の職業関連活動の評価と支援及び就労の観点から授業内容に生かした科目としている。

《目標行動(SBO)》

1. 作業療法における職業関連活動の位置づけを説明できる
2. 職業リハビリテーションの評価と方法について説明できる
3. 就労に関係した評価法の種類と特徴を説明できる
4. 上記主な評価法の手順を説明できる
5. 就労に関係した主な検査を学生間で実施できる
6. 就労支援の一連の流れを説明できる
7. 代表的な対象疾患に対する就労支援の概略を説明できる

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験 認知能力・知識）（80%）、課題（20%）で評価する。
課題：オンデマンド授業となった場合、オンデマンド課題15回を含む ①各授業のまとめ、②治療計画立案の演習まとめ(臨床思考能力)

《授業計画》

回	形式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	兵頭	作業療法の仕事と就労支援	職業関連活動評価と支援
2	講義	兵頭	職業リハビリテーションにおける流れと評価	職業関連活動評価方法①
3	演習	兵頭	就労に関する検査方法	職業関連活動評価方法②VPI職業興味検査
4	演習	兵頭	就労に関する検査方法	職業関連活動評価方法③労働省編一般職業適性検査(GATB)
5	演習	兵頭	就労に関する検査方法	職業関連活動評価方法④職業レディネス・テスト
6	演習	兵頭	就労に関する評価方法	作業場面を利用した評価法⑤マイクロタワー法、ワークサンプル幕張版等
7	講義	兵頭	就労支援事業所における評価	就労支援事業所における役割と評価の流れ
8	講義	兵頭	就労に関する評価	就労に関する評価
9	講義	兵頭	身体障害の対象者への就労支援	身体障害領域の職業関連活動評価と実践
10	講義	高橋	精神障害の対象者への就労支援	精神障害領域の職業関連活動評価と実践
11	講義	馬場	地域で活躍する主労支援の実践	地域における職業関連活動評価と実践
12	講義	山本	発達障害の対象者への就労支援	発達障害領域の職業関連活動評価と実践
13	講義	倉持	地域にある病院における就労支援	高次脳機能障害の評価と実践
14	演習	兵頭	事例検討	事例検討
15	演習	兵頭	授業のまとめ	職業関連活動評価まとめ

《専門分野 作業療法治療学》

科目名	作業療法治療学特論										
担当者氏名	木下 輝										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	3	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

作業療法の各領域における治療計画の立て方を理解する。また、臨床的推論を理解し、症例を通して治療理論の用い方、問題点の抽出から治療計画立案までの流れを理解する。また、治療技法の基礎となるリスク管理や運動療法・物理療法等の基礎について理解し説明できるようにする。

《テキスト》

特に定めない

《参考図書》

濱口豊太編集 標準作業療法学 作業療法 臨床実習とケーススタディ 第3版 医学書院 2020
岡田岳、照井林陽編集 OT症例レポート赤ペン添削 羊土社 2018

《目標行動(SBO)》

1. 症例を通して評価計画立案の手順を説明できる。
2. 症例を通して治療計画立案の手順を説明できる。
3. 治療計画実施の際のリスク管理を説明できる。
4. 症例検討を通して作業療法の臨床的推論を理解し説明できる。

《学生の留意点》

当科目は臨床実習で経験する症例に対して、作業療法士としてののかかわりかたがイメージできるように、各領域において症例検討を通して、評価や治療の仕方の実際を学べるように組み立てていく。評価における基本的な考え方、評価項目、評価バッテリーなどについては事前に復習しておき、症例検討にすぐに入れるように準備しておくことが望ましい。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を授業内容に活かした授業としている。

《成績評価の方法》

1. 課題①（評価計画立案について 仮）35%
 2. 課題②（治療計画立案について 仮）35%
 3. 課題③（症例検討から学んだことについて 仮）30%
- 以上の課題の提出をもって総合的に成績評定を行う。

《授業計画》

回	形式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	木下	総論	臨床実習とケーススタディについて
2	講義	木下	総論	臨床実習とケーススタディについて
3	講義	外来	評価から治療 発達	症例検討 提示された評価情報をもとに治療方針、治療計画の立案を考える
4	講義	外来	評価から治療 発達	症例検討 治療計画立案
5	講義	外来	評価から治療 発達	症例検討 治療計画立案
6	講義	外来	評価から治療 身障	症例検討 提示された評価情報をもとに治療方針、治療計画の立案を考える
7	講義	外来	評価から治療 身障	症例検討 治療計画立案
8	講義	外来	評価から治療 身障	症例検討 治療計画立案
9	講義	外来	評価から治療 高齢期	症例検討 提示された評価情報をもとに治療方針、治療計画の立案を考える
10	講義	外来	評価から治療 高齢期	症例検討 治療計画立案
11	講義	外来	評価から治療 高齢期	症例検討 治療計画立案
12	講義	外来	評価から治療 精神	症例検討 提示された評価情報をもとに治療方針、治療計画の立案を考える
13	講義	外来	治療技法 精神	症例検討 治療計画立案
14	講義	外来	治療技法	症例検討 治療計画立案
15	講義	河野達	治療技法	まとめ

《専門分野 作業療法治療学》

科目名	身体系作業療法学										
担当者氏名	河野 崇、福井 健太郎										
授業方法	演習	単位数	2	回数	30	時間数	60	開講年次	3	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

身体障害の作業療法を実施できるようになるために知識・技術を習得する。

《テキスト》

山口昇：『身体機能作業療法学（第4版）』、医学書院、2021
その他適宜、資料を配付する。

《参考図書》

- 菅原洋子、他：『身体障害の作業療法』（作業療法学全書4）、協同医書、2008。
 - 石川斎、他：『作業療法技術ガイド（第3版）』、文光堂、2011。
- その他、授業中に紹介。

《目標行動(SBO)》

- 中枢神経疾患の治療について説明できる。
- 脊髄損傷について説明できる。
- 大腿骨骨折について説明できる。
- 嚥下障害を説明できる。
- ハンドセラピーについて説明できる。
- 内部障害について説明できる。
- 神経筋疾患について説明できる。

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験）100%

《学生の留意点》

この授業では身体障害の作業療法を実施するために必要な知識・技術を学習する。まず、評価から治療計画までの基本的な考え方を学び、身体障害作業療法法の中核的な疾患である脳血管疾患について評価から治療技術までを応用学習する。次いで未知の疾患や各種疾患の作業療法について学習する。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	形式（教室）	担当者	テーマ	学習内容
1	講義・演習	河野崇	脳血管障害①	脳血管疾患の基礎①（脳機能・疾患・障害）
2	講義・演習	河野崇	脳血管障害②	脳血管疾患の基礎②（回復の神経生理・予後）
3	講義・演習	河野崇	脳血管障害③	脳血管疾患に対する作業療法 ①（急性期）
4	講義・演習	河野崇	脳血管障害④	脳血管疾患に対する作業療法 ②（回復期）
5	講義・演習	河野崇	脳血管障害⑤	脳血管疾患に対する作業療法 ③（維持期）
6	講義・演習	河野崇	脳血管障害⑥	脳血管症疾患に対する作業療法 ④ 小脳（協調障害）
7	講義・演習	河野崇	神経筋疾患①	神経筋疾患に対するOT①多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症
8	講義・演習	福井	神経筋疾患②	神経筋疾患に対するOT①パーキンソン病
9	講義・演習	河野崇	神経筋疾患③	神経筋疾患に対するOT③脊髄小脳変性症
10	講義・演習	福井	神経筋疾患④	神経筋疾患に対するOT①ギランバレー症候群
11	講義	外来	嚥下障害①	嚥下障害の異常を察知し、対処する①
12	講義	外来	嚥下障害②	嚥下障害の異常を察知し、対処する②
13	講義	福井	内部障害①	心電図
14	講義	外来	脊髄損傷①	脊髄損傷に対するOT①
15	講義・演習	河野崇	内部障害②	内部障害に対するOT②心臓リハ（グループワーク）
16	講義・演習	外来	脊髄損傷②	脊髄損傷に対するOT②
17	講義・演習	河野崇	内部障害③	内部障害に対するOT③糖尿病（グループワーク）
18	講義・演習	外来	脊髄損傷③	脊髄損傷に対するOT③
19	講義・演習	河野崇	内部障害④	内部障害に対するOT④呼吸器疾患（グループワーク）
20	講義・演習	外来	脊髄損傷④	脊髄損傷に対するOT④
21	講義	外来	脊髄損傷者への支援①	高位脊髄損傷者のADLと就業の一般的状況①
22	講義	外来	脊髄損傷者への支援②	高位脊髄損傷者のADLと就業の一般的状況②
23	講義・演習	河野崇	内部障害⑤	痛に対するOT④（グループワーク）
24	講義・演習	河野崇	内部障害⑥	発表（グループワーク）
25	講義	外来	ハンドセラピー①	ハンドセラピー
26	講義	外来	ハンドセラピー②	ハンドセラピー
27	講義	外来	ハンドセラピー③	ハンドセラピー
28	講義	外来	ハンドセラピー④	ハンドセラピー
29	講義	外来	ハンドセラピー⑤	ハンドセラピー
30	講義	外来	ハンドセラピー⑥	ハンドセラピー

《専門分野 作業療法治療学》

科目名	身体系作業治療学演習										
担当者氏名	福井 健太郎、河野 崇										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	3	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標 (GIO)》

身体障害の作業療法を実施できるようになるために、基礎的診察技術・治療手技を身につける。

《テキスト》

山本伸一、『脳卒中×臨床OT「今」，リハ効果を引き出す具体的実践ポイント』（株）シービーアール，2020。

《参考図書》

1. 山本伸一，編集『中枢神経系疾患に対する作業療法』，三輪書店，2009。
2. 岩崎テル子 他編：『身体機能作業療法学（第2版）』，医学書院，2011。

《目標行動 (SBO)》

1. 作業療法の治療および治療手技を実施できる。
2. 関節可動域訓練を実施できる。
3. 身体障害領域で使われる道具を用いた治療を実施できる。
4. 物理療法について説明できる。
5. 評価をして治療を実施できる。

《学生の留意点》

身体障害者に対する作業療法を実施する上で、基礎となる知識・技術・実技を学びます。積極的に参加すること。また、実技可能な服装を準備しておくこと。

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験70%，実技試験30%）で総合的に評価する。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	形式（教室）	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	福井	臨床推論	臨床推論
2	実技	福井	上肢機能訓練①	関節可動域訓練①
3	実技	福井	上肢機能訓練②	関節可動域訓練②
4	実技	福井	上肢機能訓練③	関節可動域訓練③
5	実技	福井	上肢機能訓練④	上肢機能の治療①
6	実技	福井	上肢機能訓練⑤	上肢機能の治療②（activity）
7	実技	福井	上肢機能訓練⑥	上肢機能の治療③（activity）
8	実技	河野崇	上肢機能訓練⑦	上肢機能の治療④（課題志向型訓練）
9	実技	福井	整形外科疾患	大腿骨骨折の作業療法
10	実技	福井	機能訓練①	筋力増強訓練の基礎
11	実技	河野崇	整形外科疾患	物理療法の基礎
12	実技	福井	機能訓練②	OT場面における体幹下肢への治療（バランス）
13	実技	河野崇	機能訓練③	リスク管理と移乗
14	実技	福井	評価と治療	評価と治療の演習
15	講義	福井	評価実習	評価実習への準備

《専門分野 作業療法治療学》

科目名	精神神経系作業療法学										
担当者氏名	河野 達哉										
授業方法	演習	単位数	2	回数	30	時間数	60	開講年次	3	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
		DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
		DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
		DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標(GIO)》

精神障害領域の作業療法を実施できるようになるために、知識・技術を得得する。

《テキスト》

長崎重信他：『作業療法学ゴールド・マスター・テキスト精神障害作業療法学 第3版』メジカルビュー社、2021。

《参考図書》

富岡詔子他：『精神障害 作業療法学全書 第5巻 第3版』協同医学出版社、2010。香山明美他：『精神障害作業療法—急性期から地域実践まで—第2版』医歯薬出版、2014。
山根寛：『精神障害と作業療法 新版』三輪書店、2010。

《目標行動(SBO)》

1. 精神障害領域の作業療法評価計画・治療計画の流れを説明できる。
2. 精神障害領域の作業療法で対応する対象者に対して、作業療法評価を計画し説明できる。
3. 精神障害領域の作業療法で対応する対象者に対して、作業療法治療計画を立案し説明できる。

《学生の留意点》

精神疾患・障害を多角的に理解しようとする視点と教科書等にとらわれない柔軟な学習姿勢が必要とされます。

《成績評価の方法》

筆記試験：85%。

積極性：15%（小課題）

上記の合計100%で6割に満たない者は筆記再試験とする。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務の経験を、精神障害の作業療法実施という観点から授業内容に生かした科目としている。

《授業計画》

回	形式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1	講義・演習	河野達	総論 精神科作業療法	精神科作業療法の構造とは：精神科作業療法の実践の流れ、基本的視点
2	講義・演習	河野達	評価から治療までの流れ	評価から治療計画の流れと捉え方
3	講義・演習	河野達	統合失調症の作業療法	疾患別の作業療法 統合失調症① 概説、並急性期の状態像 並急性期における評価のポイント、留意点
4	講義・演習	河野達	統合失調症の作業療法	疾患別の作業療法 統合失調症② 回復指標、疲労感と経過のモデル 並急性期における治療上の留意点
5	講義・演習	河野達	統合失調症の作業療法	疾患別の作業療法 統合失調症③ プログラム立案の原則、作業活動の選択例
6	講義・演習	河野達	統合失調症の作業療法	疾患別の作業療法 統合失調症④ 作業療法導入のポイント、7つの構成要素
7	講義・演習	河野達	統合失調症の作業療法	疾患別の作業療法 統合失調症⑤ 回復期の状態像、主要な評価項目
8	講義・演習	河野達	統合失調症の作業療法	疾患別の作業療法 統合失調症⑥ 回復期に必要な治療要素、 プログラム立案上の注意
9	講義・演習	河野達	統合失調症の作業療法	疾患別の作業療法 統合失調症⑦ 回復期に必要な治療要素 プログラム立案上の注意、病期ごとのOTの強み
10	講義・演習	河野達	統合失調症の作業療法	疾患別の作業療法 統合失調症⑧ プログラム立案演習—紙面症例から—
11	講義・演習	河野達	統合失調症の作業療法	疾患別の作業療法 統合失調症 スーパー救急の概要と実践
12	講義・演習	河野達	症例検討①	疾患別の作業療法 統合失調症 入院における作業療法士の支援、援助
13	講義・演習	戸田	理論 モデル紹介	リカバリー、ACT、ストレングスモデル
14	講義・演習	戸田	症例検討②	疾患別の作業療法 統合失調症 地域における作業療法の実際
15	講義・演習	河野達	抑うつ障害の特徴	疾患別の作業療法 抑うつ障害群①
16	講義・演習	河野達	抑うつ障害の作業療法	疾患別の作業療法 抑うつ障害群② 評価から治療の流れ
17	講義・演習	河野達	抑うつ障害の作業療法	疾患別の作業療法 抑うつ障害群③ 双極性障害
18	講義・演習	河野達	抑うつ障害の作業療法	疾患別の作業療法 抑うつ障害群④ 双極性障害
19	講義・演習	外来	抑うつ障害の作業療法	疾患別の作業療法 抑うつ障害群⑤ 復職支援 リワーク
20	講義・演習	外来	抑うつ障害の作業療法	疾患別の作業療法 抑うつ障害群⑥ 予防的アプローチ
21	講義・演習	河野達	パーソナリティ障害の作業療法	疾患別の作業療法 パーソナリティ障害 特徴 評価 治療
22	講義・演習	河野達	摂食障害の作業療法	疾患別の作業療法 摂食障害 特徴 評価 治療
23	講義・演習	河野達	神経症性障害 強迫性障害の作業療法	疾患別の作業療法 強迫性障害群 特徴 評価 治療
24	講義・演習	河野達	神経症性障害の作業療法	疾患別の作業療法 強迫性障害群 パニック障害 不安障害他 評価 治療
25	講義・演習	河野達	児童・青年期の作業療法	疾患別の作業療法 児童・青年期の精神障害 特徴
26	講義・演習	河野達	児童・青年期の作業療法	疾患別の作業療法 児童・青年期の精神障害 評価 治療
27	講義・演習	外来	アルコール依存症の作業療法	疾患別の作業療法 依存症① 特徴
28	講義・演習	外来	アルコール依存症の作業療法	疾患別の作業療法 依存症② 評価 治療
29	講義・演習	外来	地域ケアと作業療法	疾患別の作業療法 デイケアの概要と実践
30	講義・演習	河野達	まとめ	まとめ その他の精神障害 てんかん

《専門分野 作業療法治療学》

科目名	精神神経系作業療法学演習										
担当者氏名	河野 達哉										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	3	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

精神障害領域において治療・対応ができるようになるために、評価から治療の導入方法、対応方法を習得し一部の対象者に対して実施できるようになる。

《テキスト》

長崎重信他：『作業療法学ゴールド・マスター・テキスト精神障害作業療法学 第3版』メジカルビュー社、2021。

《参考図書》

岩崎テル子：『標準作業療法学 作業療法評価学 第3版』医学書院、2017。山口美和：『PT・OTのためのコミュニケーション実践ガイド』医学書院。堀田秀樹：『統合失調症・うつ病の作業療法の進め方』中山書店、2018。富岡詔子他：『精神障害 作業療法学全書 第5巻 第3版』協同医学出版社、2010。

《目標行動(SBO)》

1. 精神障害領域に必要な評価方法を述べることができる。
2. 導入およびかわりに必要な技能を理解し実施できる。
3. 治療技法としてレクリエーションの企画を立案できる。

《学生の留意点》

精神障害作業療法学を基に、アプローチに関わる視点、スキルを中心に学習し演習します。

《成績評価の方法》

筆記もしくは実技試験：85%，小課題15%で総合的に評価する。
上記合計100%で6割に満たない場合は再試験とする。
授業形式（対面、遠隔）の実際に応じて試験方法を筆記もしくは実技形式とする。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務の経験を、精神障害の作業療法実施という観点から授業内容に生かした科目としている。

《授業計画》

回	形式（教室）	担当者	テーマ	学習内容
1	講義・演習	河野達	オリエンテーション	精神科作業療法におけるアプローチ及びスキルの概要
2	講義・演習	河野達	作業療法アプローチの基礎	作業の選定、導入、作業の段階付け、援助
3	講義・演習	河野達	"	作業の援助、作業におけるフィードバック
4	講義・演習	河野達	"	治療的態度、態度療法、信頼関係の構築、作業環境、集団の調整
5	講義・演習	河野達	接触・対応の基礎	精神科における関わり方と対応の応用①
6	講義・演習	河野達	"	精神科における関わり方と対応の応用②
7	講義・演習	河野達	リスクマネジメント	精神科におけるハイリスク時における対応
8	講義・演習	外来	作業療法関連技法	関連技法① 作業療法におけるMCT, NEARの活用①
9	講義・演習	外来	"	関連技法② 作業療法におけるMCT, NEARの活用②
10	講義・演習	外来	"	関連技法③ 作業療法における心理教育, SSTの活用①
11	講義・演習	外来	"	関連技法④ 作業療法における心理教育, SSTの活用②
12	講義・演習	河野達	"	治療的レクリエーション①（統合失調症，認知症） レクリエーションの基礎 計画立案 グループで
13	講義・演習	河野達	"	治療的レクリエーション②（統合失調症，認知症）
14	講義・演習	河野達	"	治療的レクリエーション③（統合失調症，認知症）
15	実技	河野達	"	治療的レクリエーション④（統合失調症，認知症）

《専門分野 作業療法治療学》

科目名	発達系作業療法学										
担当者氏名	兵頭 洋子, 複数外来講師										
授業方法	演習	単位数	2	回数	30	時間数	60	開講年次	3	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

発達障害領域の作業療法を実施できるようになるために、知識・技術を得得する。

《テキスト》

加藤寿宏 編集：『標準作業療法学 発達過程作業療法学 第3版』。医学書院、2020。

《参考図書》

長谷龍太郎編集：『発達障害領域の作業療法』。中央法規、2011。
福田恵美子編集：『標準作業療法学 発達過程作業療法学 第2版』。医学書院、2014。
田村良子著：『発達障害（作業療法全書 改訂第3版）』。協同医書出版社、2010。

《学生の留意点》

この授業では発達障害領域の作業療法を実施するために必要な知識・技術を学習する。まず、評価から治療計画までの基本的な考え方を学習する。そして、発達障害領域の作業療法の中心となる疾患である、発達障害・知的能力障害・脳性麻痺について、評価から治療まで学習する。授業は、講義・実技・紙面症例・課題発表を通して進めていく。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務の経験を、発達障害の作業療法実施という観点から授業内容に生かした科目としている。

《目標行動(SBO)》

1. 発達障害領域での作業療法の評価計画・治療計画の流れを述べることができる。
2. 発達障害領域の対象者に作業療法評価計画を立案できる。
3. 発達障害領域の対象者に作業療法治療計画を立案できる。
4. 発達障害領域での作業療法の現状を知り、今後の課題について自分の考えを述べることができる。

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験100%）

《授業計画》

回	形式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	兵頭	評価・治療計画立案の考え方 疾患別作業療法①	評価から治療計画立案までの考え方 知的発達の障害に対する作業療法①
2	講義	兵頭	疾患別作業療法②	知的発達の障害に対する作業療法②
3	演習	兵頭	疾患別作業療法③	症例検討 知的発達の障害①
4	演習	兵頭	疾患別作業療法④	症例検討 知的発達の障害②
5	講義	中村	疾患別作業療法⑤	筋ジストロフィーに対する作業療法①
6	演習	中村	疾患別作業療法⑥	筋ジストロフィーに対する作業療法②
7	講義	兵頭	疾患別作業療法⑦	発達障害に対する作業療法① 自閉スペクトラム症
8	講義	兵頭	疾患別作業療法⑧	発達障害に対する作業療法② 注意欠如多動症
9	演習	兵頭	疾患別作業療法⑨	症例検討 自閉スペクトラム症・注意欠如多動症①
10	演習	兵頭	疾患別作業療法⑩	症例検討 自閉スペクトラム症・注意欠如多動症②
11	講義	林	疾患別作業療法⑪	脳性麻痺に対する作業療法①
12	実技	林	疾患別作業療法⑫	脳性麻痺に対する作業療法②
13	講義	林	疾患別作業療法⑬	脳性麻痺に対する作業療法③
14	実技	林	疾患別作業療法⑭	脳性麻痺に対する作業療法④
15	講義	林	疾患別作業療法⑮	脳性麻痺に対する作業療法⑤
16	実技	林	疾患別作業療法⑯	脳性麻痺に対する作業療法⑥
17	講義	林	疾患別作業療法⑰	重症心身障害に対する作業療法①
18	実技	林	疾患別作業療法⑱	重症心身障害に対する作業療法②
19	講義	河野達	疾患別作業療法⑲	発達障害の二次障害・被虐待児に対する作業療法
20	講義	柴田	疾患別作業療法⑳	司法領域における現状と作業療法
21	講義	成田	発達・心理検査結果の解釈①	WISCIIIの結果の解釈①
22	演習	成田	発達・心理検査結果の解釈②	WISCIIIの結果の解釈②
23	演習	兵頭	疾患別作業療法㉑	各種疾患の作業療法 発表①
24	演習	兵頭	疾患別作業療法㉒	各種疾患の作業療法 発表②
25	講義	西方	疾患別作業療法㉓	摂食機能障害への作業療法①
26	演習	西方	疾患別作業療法㉔	摂食機能障害への作業療法②
27	講義	西方	疾患別作業療法㉕	摂食機能障害への作業療法③
28	演習	西方	疾患別作業療法㉖	摂食機能障害への作業療法④
29	講義	大橋	ご家族の思いに寄り添う	ご家族の思いに触れる
30	演習	大橋	ご家族の思いに寄り添う	ご家族の思いに触れる

《専門分野 作業療法治療学》

科目名	発達系作業治療学演習										
担当者氏名	兵頭 洋子										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	3	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

発達障害（広義）の作業療法を実施できるようになるために必要な基礎的技術を習得する。

《テキスト》

加藤寿宏編集 標準作業療法学 発達過程作業療法学第3版
医学書院 2020

《参考図書》

その都度紹介いたします。

《目標行動(SBO)》

1. 遊びの場面を通しての評価・支援のメリット・デメリットについて述べることができる。
2. 遊びの場面を通して、対象者の作業療法評価・支援を行える。
3. 各治療理論等を用い、対象者の作業療法計画を立案できる。
4. 障害像に合わせて作業療法計画を立案できる。

《学生の留意点》

この科目では、発達障害領域の作業療法を実施するうえで役立つ理論について、演習を通して学びます。講義だけでなく、グループワークを多く取り入れて行いますので、積極的に参加してください。
※授業計画に記載してある順番は変更となる可能性があります。

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験）80％、課題20％（レポート等）

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務の経験を、発達障害の作業療法実施という観点から授業内容に生かした科目としている。

《授業計画》

回	形式（教室）		テーマ	学習内容
1	講義	兵頭	コースリエンション・遊びの場面からの評価と支援①	遊びの場面での評価におけるメリット・デメリット
2	演習	兵頭	遊びの場面からの評価と支援②	玩具遊び・遊具遊びの作業分析①
3	演習	兵頭	遊びの場面からの評価と支援③	玩具遊び・遊具遊びの作業分析②
4	演習	兵頭	遊びの場面からの評価と支援④	玩具遊び・遊具遊びの作業分析③
5	講義	兵頭	TEACCHプログラム①	TEACCHとは、構造化とは
6	演習	兵頭	TEACCHプログラム②	症例に合わせて、構造化を考える（グループワーク）
7	講義	兵頭	感覚統合理論①	感覚統合とは、感覚統合障害について
8	実技	兵頭	感覚統合理論②	感覚統合遊具の体験
9	実技	兵頭	感覚統合理論③	症例に合わせて、感覚統合遊具を使用した遊びを考える
10	演習	兵頭	感覚統合理論④	症例に合わせて、感覚統合遊具を使用した遊びを考える（発表）
11	講義	兵頭	手指機能の運動障害への作業療法	手指機能の運動障害とは、手指機能の運動障害に対する作業療法アプローチ
12	講義	兵頭	応用行動分析①	応用行動分析とは
13	演習	兵頭	応用行動分析②	症例に合わせた関わりを考える（グループワーク）
14	講義	兵頭	コミュニケーション能力障害への作業療法	コミュニケーションとは、コミュニケーション能力の障害とは、コミュニケーション能力障害に対する作業療法アプローチ
15	講義	兵頭	視運動・視知覚認知機能障害への作業療法	視運動・視知覚認知機能とは、視運動・視知覚認知機能の障害とは、視運動・視知覚認知機能に対する作業療法アプローチ

《専門分野 作業療法治療学》

科目名	高齢期作業療法学									
担当者氏名	木下 輝									
授業方法	演習	単位数	2	回数	30	時間数	60	開講年次	3	開講時期 後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		DP1	人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人							
		DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人							○
		DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人							
		DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人							

《一般教育目標(GIO)》

高齢期のクライアントに対する作業療法実践を理解するために高齢期の作業療法における評価の流れと支援課程で用いられる各理論を理解し、作業療法士の役割を知る。

《テキスト》

浅海奈津美、他：『老年期の作業療法 改訂第3版』三輪書店、2018。

《参考図書》

村田和香：『高齢期作業療法のものがたり』協同医書出版社、2023。

《目標行動(SBO)》

1. 高齢期のクライアントに必要な評価項目を挙げ、治療計画を立案できる。2. 医療・介護分野における各作業療法提供施設の役割と目的を説明できる。3. 高齢期の各施設における作業療法の流れを説明できる。4. 認知症のあるクライアントに対する支援方法の流れを説明できる。5. ケーススタディを通し、クライアントに応じた具体的な援助方法を知る。

《学生の留意点》

高齢期のクライアントは個人差が大きく様々な疾患を呈し、作業療法提供場面も多岐に渡っています。これまで学んできた基礎医学、臨床医学、評価・治療学の知識を活用し、包括的に「その人らしさ」を理解する必要があります。この授業では事例検討等を通し具体的な高齢期作業療法の役割と援助内容を学んで頂きます。

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験）70%、課題（レポート）30%
期末試験と課題の点数が6割に満たないものは再試験（筆記試験100%）とする。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務の経験を、老年期作業療法治療学の授業に活かした科目としている。

《授業計画》

回	形式（教室）	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	木下	高齢期作業療法の枠組み①	高齢者に対する作業療法支援の目的・作業の分類
2	講義	木下	高齢期作業療法の枠組み②	高齢者に対する作業療法介入の方向性と特徴
3	講義	木下	高齢期作業療法の枠組み③	理論とモデル
4	講義	木下	高齢期作業療法の枠組み④	トップダウンアプローチとボトムアップアプローチ
5	講義	木下	高齢期作業療法の対象①	高齢者の状態像と作業療法の特徴
6	講義	木下	高齢期作業療法の対象②	老化に起因する不自由
7	講義	木下	高齢期作業療法の対象③	老化と加齢変化
8	講義	木下	評価①	評価の考え方とプロセス
9	講義	木下	評価②	身体的評価・ADL/IADL
10	講義	木下	評価③	QOL・認知機能
11	講義	井上	リスク管理①	高齢者に起こりうるリスクとそのマネジメント
12	講義	川端	高齢期作業療法の対象④	認知症のタイプと認知症高齢者の作業の特徴
13	講義	山中	高齢期作業療法の実態①	日本と世界の高齢者に対する作業療法の現状
14	講義	山中	高齢期作業療法の実態②	虚弱高齢者とその予防的支援
15	講義	熊代	事例検討①	評価結果から問題点の抽出
16	講義	熊代	事例検討②	目標・治療プログラム立案
17	講義	熊代	事例検討③	情報収集から評価・治療の流れ
18	講義	熊代	事例検討④	問題点の抽出と目標設定
19	講義	川端	高齢期作業療法の実態①	地域で研究や実践をしていくために必要なスキル
20	講義	木下	評価④	精神・心理機能・介護負担
21	講義	木下	評価⑤	作業の評価
22	講義	木下	高齢期作業療法の実態③	制度的位置づけ
23	講義	木下	実践①	作業の準備状態を作る、ADL/IADLの支援
24	講義	木下	実践②	役割活動・余暇活動の支援
25	講義	川原	実践③	高齢期作業療法における多職種連携
26	講義	木下	実践④	近接援助技術を用いた支援
27	講義	木下	リスク管理②	作業の中でのリスク管理（危険予知トレーニング）
28	講義	木下	高齢者とその家族①	家族形態
29	講義	木下	高齢者とその家族②	家族に対する支援
30	講義	木下	高齢者の人権	高齢者に対する権利擁護

《専門分野 作業療法治療学》

科目名	高次脳機能作業療法学										
担当者氏名	河野 崇										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	3	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

高次脳機能障害者への作業療法を実施できるようになるために、基礎知識・評価の知識・治療方法を理解する。

《テキスト》

能登真一 編) 標準作業療法学 高次脳機能作業療法学 第2版

《参考図書》

森岡周 著) 高次脳機能のニューロリハビリテーション

《目標行動(SBO)》

1. 脳の機能局在と高次脳機能障害について説明できる。
2. 観察から高次脳機能障害の全体像を説明できる。
3. 検査測定の結果から高次脳機能障害の程度を説明できる。
4. 高次脳機能障害の支援方法を説明できる。

《学生の留意点》

高次脳機能障害への支援を行う上で必要となる知識・技術・臨床的思考を学びます。積極的に参加すること。

《成績評価の方法》

期末試験70% (筆記試験 100%)
小テスト30%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	形式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1	講義・演習	河野崇	総論	高次脳機能の全体像
2	講義・演習	河野崇	高次脳機能の基礎①	高次脳機能の局在論・全体論
3	講義・演習	河野崇	高次脳機能の基礎②	脳画像① ※小テスト①
4	講義・演習	河野崇	高次脳機能の基礎③	脳画像②
5	講義・演習	河野崇	高次脳機能の評価	検査測定からの評価、観察からの評価 ※小テスト②
6	講義・演習	河野崇	高次脳機能障害への支援①	注意障害 ※小テスト③
7	講義・演習	河野崇	高次脳機能障害への支援②	記憶障害 ※小テスト④
8	講義	外来	高次脳機能障害への支援③	失語①(左半球損傷者への支援)
9	講義	外来	高次脳機能障害への支援④	失語②(左半球損傷者への支援)
10	講義・演習	河野崇	高次脳機能障害への支援⑤	失行・失認 ※小テスト⑤
11	講義・演習	河野崇	高次脳機能障害への支援⑥	半側空間無視(右半球損傷への支援)
12	講義・演習	河野崇	高次脳機能障害への支援⑦	情動障害(頭部外傷への支援) ※小テスト⑥
13	講義・演習	河野崇	高次脳機能障害への支援⑧	遂行機能障害・前頭葉症状(頭部外傷への支援)
14	講義・演習	河野崇	学習について	運動学習
15	講義・演習	河野崇	高次脳機能障害への支援	全体のまとめふりかえり ※小テスト⑦

《専門分野 作業療法治療学》

科目名	日常生活作業治療学										
担当者氏名	福井 健太郎 河野崇										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	3	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

対象者の生活の質を向上させるために、日常生活の評価と治療、福祉機器による代償手段についての知識・技術を身につける。

《テキスト》

水落和也編：『ADLとその周辺 評価・指導・介護の実践 第3版』。医学書院。2016。

《参考図書》

酒井ひとみ 編：『作業療法学全書 作業療法技術学3 日常生活活動 第3版』。協同医書。2011。

《目標行動(SBO)》

1. 日常生活動作の評価と治療を実施できる。
2. 対象者に対し、自助具を提案できる。
3. 家事動作（IADL）について説明できる。
4. ベッド上のポジショニングについて説明できる。
5. リウマチ患者に対し、日常生活動作の注意点を説明できる。

《学生の留意点》

ADLの治療や自助具・福祉機器についての使用方法・適用や評価を学びます。対象者に自分で使用方法の指導やその適用の評価ができるようになることを目的としているので、積極的に道具の使用方法を検討してください。

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験70% 実技試験30%）で総合的に評価する。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士、福祉機器業者としての実務経験を活かし、日常生活動作と福祉機器を評価を経験できるような演習科目としている。

《授業計画》

回	形式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	福井	日常生活活動の治療	総論
2	実技	福井	ADLの評価と治療①	寝返り・起き上がり動作の治療
3	実技	福井	ADLの評価と治療②	立ち上がり動作の治療 移乗の治療
4	演習	福井	ADLの評価と治療③	食事(利き手交換)
5	演習	福井	ADLの評価と治療④	整容動作
6	実技	福井	ADLの評価と治療⑤	更衣動作
7	実技	福井	ADLの評価と治療⑥	排泄動作
8	演習	福井	ADLの評価と治療⑦	洗体動作
9	演習	河野崇	IADLの支援①	障害を持つ人の家事動作(掃除・布団敷・料理)①
10	演習	河野崇	IADLの支援②	障害を持つ人の家事動作(掃除・布団敷・料理)②
11	演習	河野崇	IADLの支援③	障害を持つ人の家事動作(掃除・布団敷・料理)③
12	講義	福井	リウマチ①	リウマチ
13	演習	福井	リウマチ②	リウマチ患者に対する生活指導
14	講義	福井	ADLの評価と治療⑧	ADLの工程分析と機能の関係
15	講義	福井	症例報告書	ADL関連の症例報告書について

《専門分野 作業療法治療学》

科目名	生活環境支援作業療法学										
担当者氏名	木下 輝 複数外来講師										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	3	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

学生は、対象者が症状・環境に適応し生活できるために、環境・機器の評価・適応を学びその知識・技術を身につける。

《テキスト》

細田多穂監修：『シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ生活環境学テキスト』改訂第2版、南江堂、2020。

《参考図書》

国際福祉機器展H.C.R.2019 福祉機器 選び方・使い方 副読本『はじめての住宅改修』『はじめての福祉車両、福祉に役立つ情報機器』

《目標行動(SBO)》

1. 環境改善の方法について説明できる。
2. 身体障害を補う機器を説明できる。
3. 身体障害を補う機器を障害に合わせて適用できる。
4. 動作の工夫方法を説明できる。
5. 機器・方法の工夫を説明できる。
6. 上肢装具を症状に合わせた作成方法を知る。
7. 上肢装具を症状に合わせた適用を説明できる。

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験）100%

期末試験の点数が6割に満たないものは再試験（筆記試験）とする。

《学生の留意点》

作業療法士のアプローチは人と環境に二分され、この授業では特に環境（道具を含む）について学び、環境の变え方や道具の適用方法を学びます。環境を対象者の生活に合わせることができるとを目的とします。環境の評価・工夫・実践を具体的に学んでください。生活環境支援作業療法学演習と関連して学んでください。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士ならびに理学療法士が担当し、その実務経験を授業内容に活かした授業としている。

《授業計画》

回	形式（教室）	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	木下	生活環境学の知識	住環境整備の意義と社会制度p1~38
2	講義	木下	生活環境整備の知識①	場面に応じた生活環境整備の知識p77~104
3	実技	木下	生活環境整備の知識②	疾患に応じた生活環境整備の知識（脳血管障害・高齢者）
4	講義	兵頭	小児領域の環境調整の知識	小児領域の福祉機器・自助具の基礎知識
5	実技	木下	生活環境整備の知識③	疾患に応じた生活環境整備の知識（関節リウマチ・パーキンソン病）
6	実技	森田	下肢装具・義足の基礎	下肢装具・義足の種類
7	実技	矢部	福祉用具の知識	福祉用具・移乗用リフトの概要
8	講義（義肢）	仲木	上肢装具の知識	スプリントの基礎知識①
9	講義（義肢）	仲木	上肢装具の知識	スプリントの基礎知識②
10	講義（義肢）	仲木	上肢装具の知識	スプリントの基礎知識③
11	講義（義肢）	仲木	上肢装具の知識	スプリントの基礎知識④
12	講義	木村	義手の知識	義手の適応・種類
13	講義	山本	住宅改修の知識	住宅改修の基礎知識、図面の見方・書き方
14	実技	沼尾	歩行補助具の基礎	杖・松葉杖・シルバーカーの種類
15	講義	山本	住宅改修の知識	住宅改修の例とその理解生活環境整備の知識②

《専門分野 作業療法治療学》

科目名	生活環境支援作業療法学演習										
担当者氏名	木下 輝 複数外来講師										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	3	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

学生は、対象者が症状・環境に適応し生活できるために、環境・機器の評価・適応を学びその知識・技術を身につける。

《テキスト》

細田多穂監修：『生活環境学テキスト』改訂第2版．南江堂．2020

《参考図書》

＜テキスト＞

国際福祉機器展H.C.R. 2019 福祉機器 選び方・使い方 副読本『はじめての住宅改修』『はじめての福祉車両、福祉に役立つ情報機器』

＜参考図書＞細田多穂監修：シンプル理学療法・作業療法学シリーズ『生活環境学テキスト改訂第2版』．南江堂．2020

《学生の留意点》

生活環境支援作業療法学で学んだ内容を実際に行えるよう環境・道具の具体的な評価・工夫・実践を実技を通して学びます。対象者に適用できるようになるために、対象者の障害像を常に思い浮かべながら、具体的に考え学びましょう。

《目標行動(SBO)》

1. 障害を持つ人を取り巻く環境の改善を工夫できる。
2. 身体障害を補う機器を説明できる。
3. 機器・方法の使い方とその工夫を説明できる。
4. 対象者の不便さに対して環境・機器で解決する方法を工夫できる。
5. 上肢装具を作製できる。

《成績評価の方法》

期末試験は実施しない。課題で評価する。
課題：レポート（75%）、スプリント（25%）。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士ならびに理学療法士が担当し、その実務経験を授業内容に活かした授業としている。

《授業計画》

回	形式（教室）	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	木下	生活環境学の応用	生活環境整備の進め方と留意点p39～76
2	講義	木下	生活環境整備の応用①	場面に応じた生活環境整備の方法p105～136
3	実技	木下	生活環境整備の応用②	疾患に応じた生活環境整備の方法（脳血管障害・高齢者）
4	講義	兵頭	小児領域の環境調整	小児領域の福祉機器・自助具の実践
5	実技	矢部	福祉用具の応用	福祉用具・リフトの使用方法
6	実技	木下	生活環境整備の応用③	疾患に応じた生活環境整備の方法（ALS・脊髄損傷）
7	講義	森田	下肢装具・義足の応用	下肢装具・義足の選定方法
8	講義（義肢）	仲木	上肢装具	スプリントの応用①
9	講義（義肢）	仲木	上肢装具	スプリントの応用②
10	講義（義肢）	仲木	上肢装具	スプリントの応用③
11	講義（義肢）	仲木	上肢装具	スプリントの応用④
12	講義	木村	義手の応用	義手の適用
13	講義	山本	住宅改修の応用	住宅改修の基礎知識、図面の見方・書き方
14	実技	沼尾	歩行補助具の応用	杖・松葉杖・シルバーカーの選定方法
15	実技	山本	住宅改修の応用	住宅改修の例とその理解

《専門分野 臨床実習》

科目名	臨床実習Ⅱ-A										
担当者氏名	河野達哉										
授業方法	実習	単位数	2	回数	-	時間数	90	開講年次	3	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										○
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										○
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										○

《一般教育目標(GIO)》

精神領域における作業療法の実践および過程を理解する。また職業人としての適切な行動をとることができる。

《テキスト》

指定なし 関連科目の教科書

《参考図書》

実習地で紹介される文献

《目標行動(SBO)》

1. 職業人としての適切な態度や行動をとることができる
2. 精神領域において対象者と望ましい関わり方（観察・面接）ができる
3. 精神領域の対象者についてICFの概念を用いて説明できる
4. 精神領域における実際の作業療法の専門性を説明できる
5. 記録・報告を実施できる

《学生の留意点》

受け身ではなく、自分から知ろう、学ぼうという姿勢を常に持ち続けて実習に臨んでください。
精神科領域の対象者と直接かかわれる貴重な経験です。実習施設対象者への感謝の気持ちを持って臨んでください。

《成績評価の方法》

臨床実習ⅡA（精神領域 観察・面接実習）の最終的な成績評価は、実習指導者による臨床実習ⅡA（精神領域 観察・面接実習）臨床実習指導報告書による評価と、学院で実施する実習後セミナーを総合して学院が決定する。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士として実務の経験を、作業療法実施という観点から実習内容に生かした科目としている。

《授業計画》

回	形式（教室）	担当者	テーマ	学習内容
1	実習		オリエンテーション	実習施設の概要、作業療法部門についてのオリエンテーション
2	実習		作業療法実践過程の経験	作業療法プログラムに参加し、対象者の観察、作業療法の実践場面の観察
3	実習		作業療法実践過程の経験	作業療法プログラムに参加し、対象者の観察、作業療法の実践場面の観察
4	実習		作業療法実践過程の経験	対象者について理解を深める。
5	実習		作業療法実践過程の経験	対象者と適切な距離を意識したかかわり方を見学・模倣する。
6	実習		作業療法実践過程の経験	対象者と適切な距離を意識したかかわり方を見学・模倣する。
7	実習		作業療法実践過程の経験	精神領域の作業療法の治療構造、作業活動の使い方を観察し理解する。
8	実習		作業療法実践過程の経験	精神領域の作業療法の治療構造、作業活動の使い方を観察し理解する。
9	実習		作業療法実践過程の経験	記録の書き方を見学、模倣する。
10	実習		まとめ	まとめとして、目標行動が達成できたかを確認する。
11	実習後 セミナー	河野 達哉	実習後セミナー	セミナーで実習の振り返り、報告ができる。
12				
13				
14				
15				

《専門分野 臨床実習》

科目名	臨床実習Ⅱ-B										
担当者氏名	福井 健太郎										
授業方法	実習	単位数	3	回数	-	時間数	135	開講年次	3	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										○
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										○
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										○

《一般教育目標(GIO)》

身体領域における作業療法評価を理解できる。また、職業人としての適切な行動をとることができる。

《テキスト》

関連科目の教科書

《参考図書》

実習地で紹介される文献

《目標行動(SBO)》

1. 職業人として適切な態度や行動をとることができる
2. 対象者や家族に対して評価に関する適切なオリエンテーションを実施できる
3. 実習地の状況に応じ可能な範囲で評価を経験できる
4. 各検査結果の解釈を説明できる
5. ICFに基づき、各機能・障害、生活状況の相互関係を説明できる
6. 実習指導者の考える目標設定の理由を説明できる
7. 実習指導者の説明を受け、問題点・目標に対応した治療プログラムを説明できる
8. 記録・報告を実施できる

《成績評価の方法》

臨床実習ⅡB（身体領域 評価実習）の最終的な成績評価は、実習指導者による臨床実習ⅡB（身体領域 評価実習）臨床実習指導報告書による評価と、学院で実施する実習後セミナー、提出書類の内容を総合して学院が決定する。

《学生の留意点》

学習オリエンテーション資料を良く読み、実習に臨むこと。授業で習った検査測定を事前によく練習したうえで実習に臨むこと。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は実習先の作業療法士が担当し、その実務経験を活かし、学生が実際に検査測定・評価および、評価をまとめる経験ができる内容である。

《授業計画》

回	形式（教室）	担当者	テーマ	学習内容
1	実習		検査・測定を見学・模倣・実施を行う	対象者に対して、検査・測定（ROM, MMT, 知覚検査、片麻痺機能検査、ADL検査等）を基本的な方法で見学・模倣・実施し、作業療法評価を経験する。
2	実習		評価結果に対し統合と解釈、目標設定を経験する	1症例の検査・測定・評価結果に対し、指導者の指導の下、統合と解釈、目標設定を行う。
3	実習		実習記録をつける 基本的な介助を経験する	実習ノートに検査・測定した内容を記載し、指導者からのフィードバックを受ける。 対象者に対して起居・移乗・移動などの基本動作の介助を経験する。
4	実習後 セミナー	福井	実習後セミナー	セミナーで実習の振り返り、報告ができる。
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	作業療法研究法演習										
担当者氏名	木下 輝										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	4	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標 (GIO)》

これまで学んできた作業療法の対象者における専門基礎知識の整理と統合を行い、疾病と障害の成り立ちおよび回復について説明し、作業療法実施のための手順を振り返り、自身の課題を再確認し、不足している知識・技術の総点検をする。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

適宜紹介する。

《目標行動 (SBO)》

1. 専門分野における、知識・技術を整理・統合し、説明できる。
2. 実習で学んだ事例以外の疾病・障害についても作業療法実施の手順を説明できる。
3. 作業療法を展開するために代表的な疾患の病態、症状、評価、治療を再確認し、臨床実習で経験した事例についての理解を深める。

《学生の留意点》

計画的に進められるように準備をして授業に臨むこと。

《成績評価の方法》

筆記試験（小テスト・まとめテスト）100%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を活かした授業としている。

《授業計画》

回	形式（教室）	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	木下	コースオリエンテーション	オリエンテーション
2	講義	木下	専門分野	専門分野（身体障害）の評価、治療の復習と統合
3	講義	木下	専門分野	専門分野（身体障害）の評価、治療の復習と統合
4	講義	木下	専門分野	専門分野（身体障害）の評価、治療の復習と統合
5	講義	木下	専門分野	専門分野（高齢期障害）の評価、治療の復習と統合
6	講義	木下	専門分野	専門分野（高齢期障害）の評価、治療の復習と統合
7	講義	木下	専門分野	専門分野（高齢期障害）の評価、治療の復習と統合
8	講義	木下	専門分野	専門分野（精神障害）の評価、治療の復習と統合
9	講義	木下	専門分野	専門分野（精神障害）の評価、治療の復習と統合
10	講義	木下	専門分野	専門分野（精神障害）の評価、治療の復習と統合
11	講義	木下	専門分野	専門分野（精神障害）の評価、治療の復習と統合
12	講義	木下	専門分野	専門分野（精神障害）の評価、治療の復習と統合
13	講義	木下	専門分野	専門分野（発達障害）の評価、治療の復習と統合
14	講義	木下	専門分野	専門分野（発達障害）の評価、治療の復習と統合
15	講義	木下	専門分野	専門分野（発達障害）の評価、治療の復習と統合

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	生命倫理学										
担当者氏名	河野 達哉										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	4	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

臨床現場で出会う倫理問題について検討できるようになるために倫理についての基礎知識を身につける。

《テキスト》

指定なし。

《参考図書》

必要に応じて提示する。

《目標行動(SBO)》

1. 医療における倫理問題の具体例を挙げられる。
2. 倫理問題を考える上での基本的考え方を説明できる。
3. 手順に従って倫理問題を検討することができる。
4. 建設的なディスカッションを行い、結果を記述できる。

《学生の留意点》

多様な回答が存在する課題について他者とディスカッションする機会が多くあります。自分の考えを伝え他者の意見に耳を傾ける姿勢を大切に建設的かつ論理的なディスカッションができるよう努力してください。

《成績評価の方法》

ワークシート100%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務経験を、医療倫理・生命倫理という観点から授業内容にいかした科目としている。

《授業計画》

回	形式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1	講義・演習	河野達	オリエンテーション	倫理とは何か、生命倫理で学ぶこと
2	講義・演習	河野達	臨床倫理の基本	医療倫理の考え方 原則とは 医療原則から 病名告知について
3	講義	河野達	生命倫理学の重要な概念	インフォームドコンセント 患者の意思を医療者の義務が対立する時の事例を通して考える
4	講義	河野達	遺伝子操作	遺伝性疾患における倫理 遺伝学的検査、出征前診断、人工妊娠中絶等について
5	講義	河野達	生殖医療 生殖操作	頭を抱える問題について 生殖補助技術とは、代理出産とその問題
6	講義・演習	河野達	生殖医療 生殖操作	頭を抱える問題について クローン人間とは、出生前診断の是非について
7	講義・演習	河野達	安楽死、尊厳死	安楽死と尊厳死の考え方 なにが問題になるのか 尊厳死 安楽死 医師の自殺ほう助について
8	講義・演習	河野達	安楽死、尊厳死	事例を通して考えよう 延命治療の差し控え、積極的安楽死について
9	講義・演習	河野達	緩和ケア ホスピス	事例を通して考えよう 人生会議(ACP) 緩和ケア 余命宣言を受けた時
10	講義・演習	河野達	優性思想	差別 偏見 について考えよう 差別の構造、スティグマ、ラベリング理論について
11	講義・演習	河野達	移植医療	脳死と臓器移植 臓器移植のドナーとレシピエント 移植はどこまで認められるのか
12	講義・演習	河野達	移植医療	移植医療の問題 脳死判定 脳死と臓器提供について
13	講義・演習	河野達	移植医療	事例を通して考えよう 事例を通じた意見交換
14	講義・演習	河野達	高齢者、認知症	本人や家族と医療従事者の信念対立 身体拘束は必要か、食べられなくなった時どうする
15	講義・演習	河野達	個人情報と守秘義務	インフォームドコンセントの本質 妨げる要因とは 守秘義務と危険性、危害性、公益性について

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	現代社会と社会保障										
担当者氏名	渋川 智明 川股典子										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	4	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										◎
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

社会保障制度を構成する公的扶助、福祉、社会保険制度などの政策理念、機能など具体的施策の内容を理解するために、現代社会の少子高齢化や財政的課題について、英国など先進諸国制度とも比較・検証し、安定的な制度設計を考察する。

《テキスト》

棕野美智子・田中耕太郎：『はじめての社会保障～福祉を学ぶ人へ』、有斐閣アルマ、2024年（第21版）

《参考図書》

必要に応じて提示する。

《目標行動(SBO)》

- 1) 社会保障制度の柱である介護・医療保険・年金・雇用保険などの保険制度の枠組みを説明できる。
- 2) 公的扶助、児童福祉、障害福祉の制度設計の基礎になっている財政（税）と社会保険制度（保険料プラス税）の基盤的相違、現状を説明できる。
- 3) 地域包括ケアシステムを理解し、医療と介護の連携、直面している課題・問題を説明できる。

《学生の留意点》

リハビリテーションの専門職として、社会保障の歴史や制度などについて学びを深めていくので、自身の考えを自覚し課題に反映できるように、積極的にご参加ください。

《成績評価の方法》

課題100%(最終講義で課す課題レポートを中心に評価、(各回の課題も評価の対象とします)

《実務経験のある教員による科目》

本科目は、社会保障制度に熟知した講師が担当し、その実務経験を生かした講義内容としている。

《授業計画》

回	形式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	渋川	社会福祉①扶助	扶助(生活保護)、児童、母子、高齢者福祉
2	講義	渋川	社会福祉②障害福祉	障害者総合支援制度と障害程度区分の導入、3障害の一体的支援。
3	講義	渋川	社会福祉③障害福祉	在宅、施設サービスの多様化と自立支援。措置制度による提供サービスから契約制度への移行と就労支援。
4	講義	渋川	公的医療保険制度①制度の概要	国民健康保険制度と被用者保険制度、保険者と被保険者の概念整理。償還払い制度と診療報酬。給付と自己負担。
5	講義	渋川	公的医療保険制度②保険給付	保険適用の医療保険給付サービスと、保険外自由診療、混合診療。
6	講義	渋川	公的医療保険制度③医療提供体制	診療所と病院の機能分化と体系化。
7	講義	渋川	公的医療保険制度と公的介護保険制度の連携	カルテ開示、インフォームドコンセント、セカンドオピニオン。訪問看護・リハビリ医療と介護の連携、地域包括ケア。
8	講義	渋川	公的介護保険制度①制度概要	保険者と被保険者の保険料、要介護認定制度、財政基盤の課題。
9	講義	渋川	公的介護保険制度②保険給付	施設・在宅、地域密着型介護保険給付サービスと、要支援者の総合支援、提供体制・事業者。
10	講義	渋川	公的年金制度①制度概要	保険者と被保険者、国民年金、厚生年金の仕組み、基礎年金の保険料と公費拠出、強制加入と猶予・免除制度。
11	講義	渋川	公的年金制度②老齢年金	老齢年金の支給開始と繰り上げ・繰り下げ支給、障害年金、遺族年金、給付と負担のバランスと賦課方式の課題。
12	講義	渋川	雇用保険、労働災害者保険とまとめ	派遣、非正規雇用と保険・補償。まとめとして、日本の社会保障制度の制度改革論争の検証、社会保障の安定的かつ持続的運営システムに関する提言と今後の展望。以上。
13	講義	川股	事例検討	問題提起 グループ討議
14	講義	川股	事例検討	問題提起 グループ討議
15	講義	川股	事例検討	問題提起 グループ討議

《専門基礎分野 保健医療福祉とリハビリテーションの理念》

科目名	保健医療福祉連携論										
担当者氏名	木下 輝										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	4	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										○
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

保健・医療・福祉の現場におけるチームワークの構築、目標達成のために多職種連携とそのコンピテンシーを修得する。

《テキスト》

特になし。

《参考図書》

その都度ご紹介します。

《目標行動(SBO)》

1. 連携の必要性について説明できる。
2. 他の専門職の仕事とその専門性について説明できる。
3. チーム医療の中の作業療法の専門性について説明できる。
4. 各病期の多職種連携について説明できる。
5. 他の専門職と連携し、事例について最適な関わりを想定することが出来る。

《学生の留意点》

授業内でグループワークを行います。積極的な参加を期待します。

《成績評価の方法》

課題100%（レポート）

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を活かした授業としている。

《授業計画》

回	形式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	木下	オリエンテーション	アイスブレイク
2	講義	木下	総論	IPE (IPW) とは
3	講義	木下	専門性の理解	他の専門職とその専門性を理解する
4	講義	木下	チームワークの成り立ち	チームビルディングの基礎
5	講義	木下	多職種連携に必要なコミュニケーション能力	多職種連携に必要なコミュニケーション能力
6	講義	木下	チームと連携の為の一般知識	チームと連携の為の一般知識
7	講義	木下	ワークショップ①	理学療法学生との事例検討①
8	講義	木下	ワークショップ②	理学療法学生との事例検討②
9	講義	木下	ワークショップ③	理学療法学科学生との事例検討③
10	講義	木下	臨床におけるIPW①	専門家作業療法士によるIPE実践の紹介、ワークショップ
11	講義	木下	臨床におけるIPW①	専門家理学療法士によるIPE実践の紹介、ワークショップ
12	講義・外部	木下	ワークショップ⑤	看護学科・理学療法学科学生との事例検討① ※日中を予定
13	講義・外部	木下	ワークショップ⑥	看護学科・理学療法学科学生との事例検討② ※日中を予定
14	講義	木下	リフレクション	リフレクション
15	講義	木下	まとめ	まとめ

《専門分野 作業療法管理学》

科目名	作業療法管理学										
担当者氏名	河野 達哉										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	4	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

作業療法士として働くために、必要とされる職場管職、職業倫理について知る。

《テキスト》

なし（適宜、資料を配付する）

《参考図書》

その都度紹介する

《目標行動(SBO)》

1. 作業療法部門の管理に必要な業務を述べることができる。
2. 作業療法部門の運営に必要な業務を述べることができる。
3. 診療報酬の体系について述べるができる。
4. 作業療法士に求められる職業倫理について説明できる。

《学生の留意点》

作業療法士として働くために必要とされる管理運営、職業倫理、対象者保護の視点について学ぶ。その回ごとにキークエスチョンに答える。また、それらの知識を基に、作業療法室開設のプロジェクトを行う。

《成績評価の方法》

筆記試験は実施しない。
課題100%（レポート40% ワークシート60%）

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務の経験を、作業療法実施という観点から授業内容に生かした科目としている。

《授業計画》

回	形式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	河野達	組織 権利 義務	職業人としてのスタート(組織・権利・義務)
2	講義	河野達	医療・介護の仕組み	医療費が払えない! どうする? (医療・介護保険)
3	講義	河野達	社会保障	働けなくなったらどうする? (社会保障・年金)
4	講義	河野達	連携論	他部門と協力・連携する(連携論)
5	講義	河野達	守秘義務 ハラスメント	プライバシーに配慮する(守秘義務, ハラスメント)
6	講義	河野達	職業倫理 医療倫理	あなたの判断は(医療倫理)
7	講義	河野達	職業倫理 医療倫理	あなたの判断は(医療倫理)
8	講義	河野達	管理	管理職になったら(リーダーシップとフォロワーシップ)
9	講義	河野達	診療報酬制度	身体障害者部門の管理運営
10	講義	河野達	診療報酬制度	発達・高齢期部門の管理運営
11	講義	河野達	診療報酬制度	精神障害部門の管理運営
12	講義・演習	河野達	作業療法室開設	作業療法室を開設する①(準備)
13	講義・演習	河野達	作業療法室開設	作業療法室を開設する②(準備)
14	講義・演習	河野達	作業療法室開設	作業療法室を開設する③(準備)
15	講義・演習	河野達	作業療法室開設	作業療法室を開設する④(発表)

《専門分野 作業療法治療学》

科目名	臨床医学特論										
担当者氏名	福井 健太郎										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	4	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

経験する機会が少ない事例に対して、評価から治療実施に至る様々な情報の統合と解釈、治療計画立案について理解する。具体的には、中枢神経障害（筋萎縮性側索硬化症、Parkinson病、失調症他）、骨関節障害（熱傷、肩手症候群、種々の変形拘縮他）、器質性精神障害、内部障害（糖尿病、急性心筋梗塞他）、神経筋疾患（末梢神経障害、Guillain-barre症候群他）などの治療実施について説明できるようにする。

《テキスト》

指定しない。

《参考図書》

適宜紹介する。

《目標行動(SBO)》

1. 専門分野における、知識・技術を整理・統合し、説明できる。
2. 実習で学んだ事例以外の疾病・障害についても作業療法実施の手順を説明できる。
3. 作業療法を展開するために代表的な疾患の病態、症状、評価、治療を再確認し、臨床実習で経験した事例についての理解を深める。

《学生の留意点》

計画的に進められるように準備して授業に臨むこと。

《成績評価の方法》

筆記試験（小テスト、まとめテスト）100%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を活かした授業としている。

《授業計画》

回	形式（教室）	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	福井	コースオリエンテーション	オリエンテーション
2	講義	福井	専門分野	専門分野（身体障害）の評価、治療の復習と統合
3	講義	福井	専門分野	専門分野（身体障害）の評価、治療の復習と統合
4	講義	福井	専門分野	専門分野（身体障害）の評価、治療の復習と統合
5	講義	福井	専門分野	専門分野（高齢期障害）の評価、治療の復習と統合
6	講義	福井	専門分野	専門分野（高齢期障害）の評価、治療の復習と統合
7	講義	福井	専門分野	専門分野（高齢期障害）の評価、治療の復習と統合
8	講義	福井	専門分野	専門分野（精神障害）の評価、治療の復習と統合
9	講義	福井	専門分野	専門分野（精神障害）の評価、治療の復習と統合
10	講義	福井	専門分野	専門分野（精神障害）の評価、治療の復習と統合
11	講義	福井	専門分野	専門分野（精神障害）の評価、治療の復習と統合
12	講義	福井	専門分野	専門分野（精神障害）の評価、治療の復習と統合
13	講義	福井	専門分野	専門分野（発達障害）の評価、治療の復習と統合
14	講義	福井	専門分野	専門分野（発達障害）の評価、治療の復習と統合
15	講義	福井	専門分野	専門分野（発達障害）の評価、治療の復習と統合

《専門分野 作業療法治療学》

科目名	臨床作業療法学演習a										
担当者氏名	河野 達哉、兵頭 洋子、福井 健太郎、河野 崇、木下 輝、並木 秀樹										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	4	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

作業療法評価及び治療を実施できるようになるために、必要とされる臨床技能を習得する。

《テキスト》

適宜資料を配布する。

《参考図書》

適宜紹介をする。

《目標行動(SBO)》

1. シナリオに基づいて各領域の面接・検査測定を模擬的に実施できる。
2. 自己の臨床上の利点、欠点を自覚し、修正すべき点は修正できる。

《学生の留意点》

臨床実習の導入を円滑にするために、臨床実習前の準備として、各学生の臨床上の利点、欠点を確認する授業である。ケースシナリオに基づいて、対象者の評価を組立て、実施するプロセスを模擬的にを行い、学生間で相互評価する授業形態をとる簡易型のOSCEを実施して、臨床上の注意点を学習する。

《成績評価の方法》

筆記試験は実施しない。
課題100%（領域別ワークシート他80%、レポート20%）

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務の経験を、作業療法評価及び治療の実施という観点から授業内容に活かした科目としている。

《授業計画》

回	形式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	河野達	臨床に必要とされる能力とは	臨床で必要とされる能力/自己知覚/共感・傾聴の方法
2	講義	河野達	面接法	面接方法の紹介/陥りやすい対応に気付く
3	講義	福井	身体障害事例を通し評価の手順を考え実施する①	身体障害分野のOSCE①(事例提示/グループ検討)
4	実技	福井	身体障害事例を通し評価の手順を考え実施する②	身体障害分野のOSCE②(実施/振り返り)
5	実技	福井	身体障害事例を通し評価の手順を考え実施する③	身体障害分野のOSCE③(実施/振り返り)
6	講義	木下	老年期事例を通し評価の手順を考え実施する①	老年期障害分野のOSCE①(事例提示/グループ検討)
7	実技	木下	老年期事例を通し評価の手順を考え実施する②	老年期障害分野のOSCE②(実施/振り返り)
8	実技	木下	老年期事例を通し評価の手順を考え実施する③	老年期障害分野のOSCE③(実施/振り返り)
9	講義	河野達	精神障害事例を通し評価の手順を考え実施する①	精神障害分野のOSCE①(事例提示/グループ検討)
10	実技	河野達	精神障害事例を通し評価の手順を考え実施する②	精神障害分野のOSCE②(実施/振り返り)
11	実技	河野達	精神障害事例を通し評価の手順を考え実施する③	精神障害分野のOSCE③(実施/振り返り)
12	講義	兵頭	発達障害事例を通し評価の手順を考え実施する①	発達障害分野のOSCE①(事例提示/グループ検討)
13	実技	兵頭	発達障害事例を通し評価の手順を考え実施する②	発達障害分野のOSCE②(実施/振り返り)
14	実技	兵頭	発達障害事例を通し評価の手順を考え実施する③	発達障害分野のOSCE③(実施/振り返り)
15	講義	河野達	まとめ	臨床で必要とされる能力

《専門分野 作業療法治療学》

科目名	臨床作業療法学演習b										
担当者氏名	河野 達哉、兵頭 洋子、福井 健太郎、河野 崇、木下 輝										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	4	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

作業療法評価・治療を実践できるための知識・技術を身につける。

《テキスト》

適宜資料を配布する。

《参考図書》

適宜紹介をする。

《目標行動(SBO)》

1. 障害像に合せた作業療法評価・治療の方法を説明できる。
2. 障害像に合せた作業療法評価・治療を実施できる。
3. 経験した事例について、事例報告が出来、また質問に答えることが出来る。
4. 事例報告を聞き、その内容に疑問をもち質問をすることが出来る。また、自身の意見を述べる事が出来る。

《学生の留意点》

この授業は、臨床実習を通して学んだ知識を深め、技術をより確かなものにして行くための授業である。疑問に感じたことはまず自身で調べ、それでも分からないことについては教員に質問をするなどし、解決を図るために自発的に動くこと、またグループワークにおいては他者の意見を尊重しつつ、自分の意見を述べる事が望まれる。

《成績評価の方法》

課題100%

- 事例報告40%（Ⅰ期目20%，Ⅱ期目20%）
- 事例報告質疑応答10%（Ⅰ期目5%，Ⅱ期目5%）
- ケーススタディ報告書20%
- 国試問題分析30%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務の経験を、作業療法評価及び治療の実施という観点から授業内容に活かした科目としている。

《授業計画》

回	形式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1	演習	河野達 /木下	事例報告①	Ⅰ期目事例報告①
2	演習	河野達 /兵頭	事例報告②	Ⅰ期目事例報告②
3	演習	福井 /木下	事例報告③	Ⅰ期目事例報告③
4	演習	河野達 /河野崇	作業療法評価・治療	臨床で必要な評価・治療についての演習（領域毎）
5	演習	河野達 木下/河 野崇	事例報告④	Ⅱ期目事例報告①
6	演習	河野達 木下/河 野崇	事例報告⑤	Ⅱ期目事例報告②
7	演習	河野達 木下/河 野崇	事例報告⑥	Ⅱ期目事例報告③
8	演習	河野達 木下/兵 頭	ケーススタディ①	事例の理解を深める/実習事例を通し作業療法評価・治療を考える①オリエンテーション・ワーク
9	演習	河野達 木下/兵 頭	ケーススタディ②	事例の理解を深める/実習事例を通し作業療法評価・治療を考える② グループワーク
10	演習	河野達 木下/兵 頭	ケーススタディ③	事例の理解を深める/実習事例を通し作業療法評価・治療を考える③ グループワーク
11	演習	福井/河 野崇	疾患・障害の理解を深める①	疾患障害の理解を深め、国家試験問題を考える①
12	演習	福井/河 野崇	疾患・障害の理解を深める②	疾患障害の理解を深め、国家試験問題を考える②
13	演習	福井/河 野崇	疾患・障害の理解を深める③	疾患障害の理解を深め、国家試験問題を考える③
14	演習	福井/河 野崇	疾患・障害の理解を深める④	疾患障害の理解を深め、国家試験問題を考える④
15	演習	河野崇/ 兵頭	疾患・障害の理解を深める⑤	疾患障害の理解を深め、国家試験問題を考える⑤

《専門分野 地域作業療法学》

科目名	地域作業療法学Ⅱ										
担当者氏名	河野 崇										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	4	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

対象者（障害児者、高齢者）の地域における生活を支援していくために必要な知識技術を修得し、課題解決能力を培う。具体的には障害児者における地域支援のために必要な知識を説明でき、地域生活で生じている問題について解決策を考えることができるようにする。また、地域包括ケアシステムを理解し、作業療法士の活動、役割を説明できるようにする。

《テキスト》

適宜資料を配布する。

《参考図書》

大田仁史著：『地域リハビリテーション論Ver7』、医歯薬出版株式会社、2018
太田睦美編：『作業療法学全書 第13巻 地域作業療法学 改訂第3版』、協同医書出版、2009
その他、適宜紹介する。

《目標行動(SBO)》

1. 地域生活支援に必要な知識を説明できる。
2. 各領域の作業療法士の活動、役割を説明できる。
3. 症例検討やレポート作成を通し、生活支援について自分の考えをまとめることができる。

《学生の留意点》

この授業は将来の自分が働いている領域を具体的にイメージできる機会につながります。受け身で講義を受けるのではなく、分からないことがあれば授業中に質問するようにしてください。また、レポート課題に対しては早めに準備に取りかかるようにしてください。

《成績評価の方法》

課題レポート 80%
仮「地域包括支援について」
仮「作業療法サービスの見える化」
ワークシート20%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務の経験を、地域作業療法という観点から授業内容に生かした科目としている。

《授業計画》

回	形式（教室）	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	河野崇	コースオリエンテーション	地域の課題を考える データーを元に何が問題になっているのか討議しよう
2	講義	河野崇	病院から地域移行	入院、入所から地域 地域作業療法の展開
3	講義	田村	地域包括支援①	小金井市の地域包括支援の現状を知る①
4	講義	田村	地域包括支援②	小金井市の地域包括支援の現状を知る②
5	講義	糟谷	地域包括支援③	地域包括支援での作業療法を考える
6	講義	糟谷	地域包括支援④	地域包括支援での作業療法を考える
7	講義	石井	訪問・在宅支援①	訪問・在宅支援での事例を通して考える
8	講義	石井	訪問・在宅支援②	訪問・在宅支援での事例を通して考える
9	講義	戸田	地域の事業所	地域の事業所での作業療法士の活躍
10	講義	戸田	地域の事業所	地域の事業所での作業療法士の活躍
11	講義	八重樫	発達支援①	発達支援関連で支援している作業療法士の活躍
12	講義	八重樫	発達支援①	発達支援関連で支援している作業療法士の活躍
13	講義	河野崇	地域でのさまざまな取り組み	地域のニーズとは リハ職にできることを考える
14	講義	河野崇	地域でのさまざまな取り組み	地域のニーズとは リハ職にできることを考える
15	講義	河野崇	まとめ	地域での作業療法の可能性をディスカッションする

《専門分野 臨床実習》

科目名	臨床実習Ⅲ-A										
担当者氏名	福井 健太郎										
授業方法	実習	単位数	8	回数	-	時間数	360	開講年次	4	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										○
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										○
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										○

《一般教育目標(GIO)》

身体障害領域・高齢期領域・発達障害領域・精神障害領域における作業療法実践過程を理解する。また、職業人としての適切な行動をとることができる。

《テキスト》

指定なし。

《参考図書》

関連科目の教科書。
実習地で指導者により紹介される文献。
要望に応じて紹介。

《目標行動(SBO)》

1. 職業人として適切な態度や行動をとることができる
2. 対象者の作業療法評価を実施できる
3. 作業療法評価結果を整理できる
4. 作業療法治療計画を立案できる
5. 作業療法治療計画を部分的に実施できる
6. 記録・報告を行える

《学生の留意点》

8週間といった長期間の実習となる。生活リズムを整えた上で臨むこと。また8週間の中で体調を崩さないように配慮して臨むこと。臨床実習は現場における貴重な経験である為、学ぶ姿勢を忘れずに取り組むこと。担当させていただく対象者のみならず、見学させていただく方や指導者・施設のスタッフに常に感謝の気持ち、敬意をもち接すること。

《成績評価の方法》

臨床実習Ⅲ（総合臨床実習）臨床実習指導報告書による評価 60%

実習後セミナー 20%

実習前・後評価 20%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務経験を活かし、実際の評価・治療を学べる実習科目としている。

《授業計画》

回	形式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1			臨床実習前評価	臨床実習前評価
2			オリエンテーション	【1週目】オリエンテーション：各施設の規定、実習スケジュール等の確認 実習地に慣れ、実習分野に特有の考え方を知り、それに合わせて行動する。
3			初期評価	【2週目】実習指導者の指導・監督の下、評価の見学・模倣・実施を経験し、対象者に慣れ、学生なりの観察力・表現力を養成する。
4			初期評価	【3週目】実習指導者の指導・監督の下、評価の見学・模倣・実施を経験し、対象者に慣れ、学生なりの観察力・表現力を養成する。
5			問題点の抽出・目標設定 治療計画立案	【4週目】実習指導者の指導・監督の下、評価した内容から問題点の抽出・目標設定・治療計画立案を実施する。
6			治療実施	【5週目】実習指導者の指導・監督の下、治療の見学・模倣・実施を経験する。
7			治療実施	【6週目】実習指導者の指導・監督の下、治療の見学・模倣・実施を経験する。
8			治療計画の変更	【7週目】実習指導者の指導・監督の下、対象者の変化に応じて治療計画を変更できる。
9			臨床実習後評価	【8週目】臨床実習後評価
10			実習後セミナー	実習の振り返り、報告
11				
12				
13				
14				
15				

《専門分野 臨床実習》

科目名	臨床実習Ⅲ-B										
担当者氏名	福井 健太郎										
授業方法	実習	単位数	8	回数	-	時間数	360	開講年次	4	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										○
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										○
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										○

《一般教育目標(GIO)》

身体障害領域・高齢期領域・発達障害領域・精神障害領域における作業療法実践過程を理解する。また、職業人としての適切な行動をとることができる。

《テキスト》

指定なし。

《参考図書》

関連科目の教科書。
実習地で指導者により紹介される文献。
要望に応じて紹介。

《目標行動(SBO)》

1. 職業人として適切な態度や行動をとることができる
2. 対象者の作業療法評価を実施できる
3. 作業療法評価結果を整理できる
4. 作業療法治療計画を立案できる
5. 作業療法治療計画を部分的に実施できる
6. 記録・報告を行える

《学生の留意点》

8週間といった長期間の実習となる。生活リズムを整えた上で臨むこと。また8週間の中で体調を崩さないように配慮して臨むこと。臨床実習は現場における貴重な経験である為、学ぶ姿勢を忘れずに取り組むこと。担当させていただく対象者のみならず、見学させていただく方や指導者・施設のスタッフに常に感謝の気持ち、敬意をもち接すること。

《成績評価の方法》

臨床実習Ⅲ（総合臨床実習）臨床実習指導報告書による評価 60%

実習後セミナー 20%

実習前・後評価 20%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務経験を活かし、実際の評価・治療を学べる実習科目としている。

《授業計画》

回	形式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1			臨床実習前評価	臨床実習前評価
2			オリエンテーション	【1週目】オリエンテーション：各施設の規定、実習スケジュール等の確認 実習地に慣れ、実習分野に特有の考え方を知り、それに合わせて行動する。
3			初期評価	【2週目】実習指導者の指導・監督の下、評価の見学・模倣・実施を経験し、対象者に慣れ、学生なりの観察力・表現力を養成する。
4			初期評価	【3週目】実習指導者の指導・監督の下、評価の見学・模倣・実施を経験し、対象者に慣れ、学生なりの観察力・表現力を養成する。
5			問題点の抽出・目標設定 治療計画立案	【4週目】実習指導者の指導・監督の下、評価した内容から問題点の抽出・目標設定・治療計画立案を実施する。
6			治療実施	【5週目】実習指導者の指導・監督の下、治療の見学・模倣・実施を経験する。
7			治療実施	【6週目】実習指導者の指導・監督の下、治療の見学・模倣・実施を経験する。
8			治療計画の変更 まとめ	【7週目】実習指導者の指導・監督の下、対象者の変化に応じて治療計画を変更できる。
9			臨床実習後評価	【8週目】臨床実習後評価
10			実習後セミナー	実習の振り返り、報告
11				
12				
13				
14				
15				